本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告(3)

－個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査－

2007年

富山県射水市教育委員会

上　９地区　１号周溝式掘立柱建物（東から）　　下　11地区　７号溝（東から）

巻首図版 2

11地区　玉作関連遺物（弥生時代）

本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告(3)

－個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査－

２００７年

富山県射水市教育委員会

序

射水市は富山県のほぼ中央に位置し、北は富山湾に面し、中央部には低平な射水平野が広がり、南部は緑豊かな射水丘陵が連なる自然環境に恵まれた都市であります。

この報告書は、本江土地区画整理事業後の宅地部分11箇所で実施した本江畑田Ⅰ遺跡の発掘調査報告書です。本江畑田Ⅰ遺跡は、弥生時代後期から終末期にかけての集落跡です。今回の調査では勾玉・管玉・ガラス玉などの玉作りに関連した遺物が出土しており、弥生時代後期の集落における玉作りの生産状況を知る貴重な資料をもたらす結果となりました。

本書はささやかな一書ではありますが、射水市域における歴史に新たな一頁を加えるとともに、私達の共有財産である埋蔵文化財の普及と啓発に少しでも貢献することができれば幸いに存じます。

終わりに、現地調査及び報告書刊行に際し、ご理解・ご協力を賜りました関係各位に感謝申し上げます。今後とも、埋蔵文化財行政への一層のご協力・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成19年３月

射水市教育委員会
教育長　竹　内　伸　一

例　　言

1　本書は富山県射水市あおば台地内に所在する本江畑田Ⅰ遺跡の発掘調査報告である。

2　調査は、個人専用住宅建築に先立ち、個人の依頼を受け平成17年10月末までの調査を大門町教育委員会が、11月以降の調査は射水市教育委員会が実施した。調査費用については、射水市が国庫補助金・県費補助金の交付を受けた。

3　調査事務局は平成17年10月末までは大門町教育委員会に置き、主任尾野寺克美が事務を担当し、次長宮林明雄が総括した。11月以降は射水市教育委員会文化課に置き、文化財係長松下勝彦が事務を担当し、課長川口武治が総括した。また、現地調査は主査原田義範・主任田中　明・主任金三津英則が担当し、本書の執筆・編集は田中が担当した。

4　遺物図版掲載写真は、西大寺フォト杉本和樹氏に撮影委託した成果品を使用した。

5　発掘調査及び遺物整理の従事者は次のとおりである。（五十音順）

【現地調査】　泉　義正・遠藤正成・加藤　保・木沢義明・高田栄次・多田笑子・塚越清一
寺島笑子・中野順一・中橋いみ子・橋本真津子・長谷一雄・藤井ふみ子
星野真弓・三島律子・南　津喜女・宮本幸男・宮脇　廣

【整理作業】　金瀬ますみ・吉島正喜・開　一美・堀埜実津子・吉沢泰子

6　調査で得た図面・写真・遺物は射水市教育委員会で保管し、遺物に遺跡名を略号で記入している。

本江畑田Ⅰ遺跡：DHHI－１（１地区）・DHHI－２（２地区）・DHHI－３（３地区）
DHHI－４（４地区）・DHHI－５（５地区）・DHHI－６（６地区）
DHHI－７（７地区）・DHHI－８（８地区）・DHHI－９（９地区）
DHHI－10（10地区）・DHHI－11（11地区）

凡　　例

1　本書に掲載の遺構図の方位は真北、水平基準は海抜高である。

2　遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。　SD：溝　SK：土坑　SP：柱穴及び柱穴状土坑
SB：周溝式掘立柱建物　SE：井戸　SX：不明遺構

3　遺構平面図の縮尺は1／80、遺構断面図の縮尺は1／40、遺物実測図の縮尺は土器の1／3を基本とし、縮尺の異なる遺物についてはそれぞれのスケールとともにその縮尺を表記した。

4　出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。

5　本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。

6　調査区の座標（世界測地系）は次のとおりである。

１地区：X21Y14＝X79792.5	Y－10220	２地区：X16Y12＝X79780	Y－10215
３地区：X11Y11＝X79767.5	Y－10212.5	４地区：X３Y３＝X79747.5	Y－10192.5
５地区：X２Y８＝X79745	Y－10205	６地区：X29Y16＝X79812.5	Y－10225
７地区：X19Y３＝X79787.5	Y－10192.5	８地区：X34Y７＝X79825	Y－10202.5
９地区：X21Y－２＝X79792.5	Y－10180	10地区：X16Y－３＝X79780	Y－10177.5
11地区：X14Y１＝X79775	Y－10187.5		

7　遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。

■：須恵器・珠洲　■：黒色処理　■：赤彩処理　□：煤

目　　次

第１章　遺跡の位置と歴史的環境 …… 1

第２章　調査に至る経緯 …… 3

第３章　調査の概要 …… 5

第１節　本発掘調査１地区 …… 7
第２節　本発掘調査２地区 …… 8
第３節　本発掘調査３地区 …… 9
第４節　本発掘調査４地区 …… 10
第５節　本発掘調査５地区 …… 12
第６節　本発掘調査６地区 …… 13
第７節　本発掘調査７地区 …… 14
第８節　本発掘調査８地区 …… 16
第９節　本発掘調査９地区 …… 17
第10節　本発掘調査10地区 …… 18
第11節　本発掘調査11地区 …… 19

第４章　考　察 …… 27

巻首図版目次

巻首図版１　９地区１号周溝式掘立柱建物　11地区７号溝
巻首図版２　11地区玉作関連遺物

挿　図　目　次

第１図　射水市の位置 …… 1
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡 …… 2
第３図　調査地位置図 …… 4
第４図　発掘区位置図 …… 6
第５図　遺構実測図［１地区］ …… 7
第６図　遺構実測図［２地区］ …… 8
第７図　遺構実測図［３地区］ …… 9
第８図　遺構実測図［４地区］ …… 10
第９図　遺構実測図［４地区］SD15 …… 11
第10図　遺構実測図［５地区］ …… 12
第11図　遺構実測図［６地区］ …… 13
第12図　遺構実測図［７地区］ …… 14

第13図　遺構実測図［７地区］SD02 ……15
第14図　遺構実測図［８地区］……16
第15図　遺構実測図［９地区］……17
第16図　遺構実測図［10地区］……18
第17図　遺構実測図［11地区］……19
第18図　遺物実測図［１地区］包含層　［２地区］SK03 ……20
［３地区］SP26　SD01　SK01　［４地区］SD15
第19図　遺物実測図［４地区］SD15 ……21
第20図　遺物実測図［５地区］SK05　SD17　［７地区］SD01 ……22
第21図　遺物実測図［７地区］SD01　SX03　［８地区］包含層 ……23
［９地区］SD01　SK01　包含層　［10地区］SD01
第22図　遺物実測図［10地区］SD02　SE03　［11地区］SD03　SD07　SK19 ……24
第23図　遺物実測図［11地区］SD07 ……25
第24図　遺物実測図［11地区］SD07　SK11　SK16 ……26
第25図　玉作関連遺物出土遺構分布図……27
第26図　集落構成模式図……28

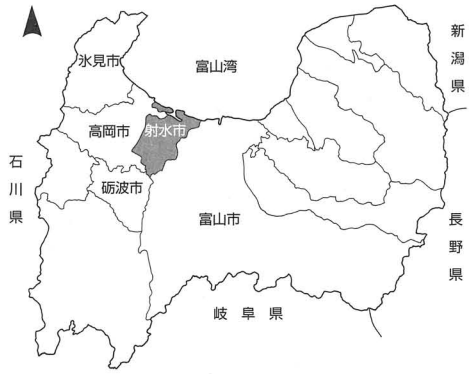
表　目　次

第１表　本江土地区画整理事業地内調査一覧……3
第２表　出土遺物観察表（１～56）……29
第３表　出土遺物観察表（57～112）……30

図版目次

図版１　遺構全景・溝・柱穴状土坑　［１地区］SD01　SP03　SP09　SP11
図版２　遺構全景・溝・柱穴状土坑・土坑　［２地区］SD01　SP13　SK02　SK03
図版３　遺構検出・溝・土坑・作業風景　［３地区］SD03　SD04　SK01
図版４　遺構全景・溝　［４地区］SD15
図版５　遺構全景・溝・柱穴状土坑・土坑　［５地区］SD02　SD03　SP06　SK05
図版６　遺構全景・柱穴状土坑・土坑　［６地区］SP06　SP15　SP24　SK01
図版７　遺構全景・溝・柱穴状土坑・土坑　［７地区］SD02　SP14　SK17
図版８　遺構全景・溝・土坑　［８地区］SD03　SK05　包含層
図版９　遺構全景・溝・周溝式掘立柱建物・柱穴状土坑　［９地区］SD01　SB01　SP09　SP13
図版10　遺構全景・溝・井戸　［10地区］SD01　SD02　SE03
図版11　遺構全景・溝・土坑　［11地区］SD05　SD07　SK05
図版12　出土遺物　土器　［４地区］SD15
図版13　出土遺物　土器・石製品　［４地区］SD15
図版14　出土遺物　土器　［５地区］SK05　SD17
［７地区］SD01
図版15　出土遺物　土器　［７地区］SD02　［８地区］包含層
［９地区］SD01　SD04　SK01　包含層
図版16　出土遺物　土器・石製品　［10地区］SD01　SD02
［11地区］SD03　SD07　SK11　SK16　SK19

第１章　遺跡の位置と歴史的環境



第１図　射水市の位置

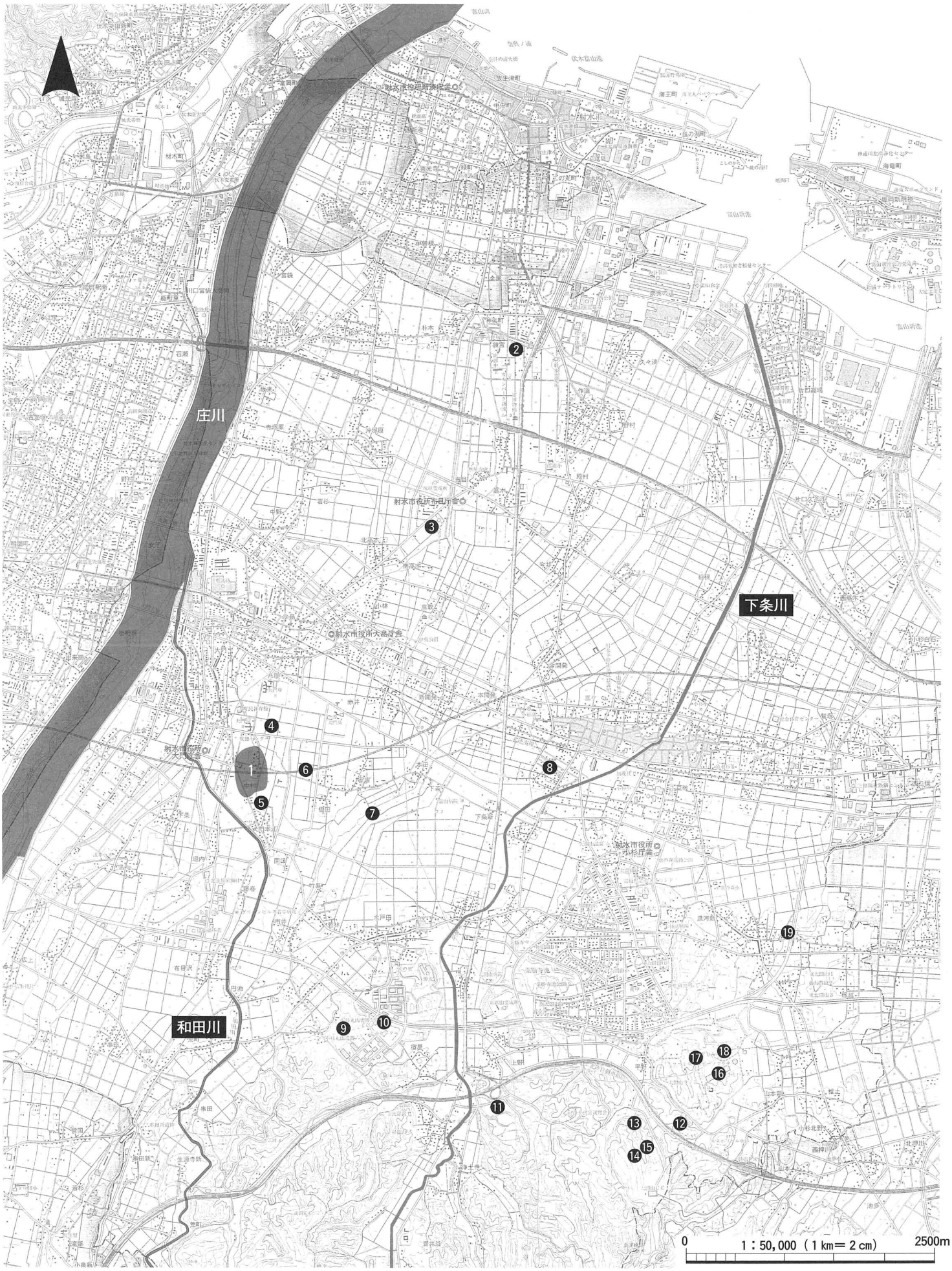
射水市は富山県のほぼ中央に位置し、東は富山市、西は高岡市、南は砺波市に隣接している。市域は東西約11㎞、南北約15㎞で総面積109.18㎢である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高０～140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便にも恵まれていることから、住宅団地の造成が頻繁に行われ、ベッドタウン化が進んでいる。現在の人口は約９万５千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11㎞、南北約７㎞の範囲の低湿地帯である。およそ１万～８千年前に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は縄文海進とよばれる気候変化と海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約５m以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟(現：富山新港)としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが澱み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。鍛冶川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境のなかで、先人達は生活の場を求めながら集落を形成していったものと考えられる。現在、市内には460箇所の遺跡が密集しており、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡の立地が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、石太郎G～J遺跡、赤坂A～D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内最大規模を有する。いずれも須恵器生産窯跡や鉄生産製鉄炉と炭窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡、黒河尺目遺跡などの集落遺跡が分布し、竪穴住居や掘立柱建物、溝や井戸などの遺構が確認されている。生産地である丘陵部と生活・消費地である平野部とを河川が結んで、物資を運ぶ交通路として機能していたために、集落を営んでいたものと考えられている。

本江畑田Ⅰ遺跡は、庄川右岸の扇状地上の標高8.5m～9.1mの間に立地し、地形が段丘状にやや高まる先端部付近に位置している。過去２次の発掘調査より、緑色凝灰岩の残核・剥片や管玉の未成品が出土しており、玉作工房をもつ集落の存在を示唆している。また、今回の発掘調査地の南側隣接地（現：射水建設業会館）には、地区住民より墳丘のような盛り上がりが存在していたとされ、この周辺の弥生時代から古墳時代に至る遺構との関係が興味深い遺跡である。

本遺跡周辺には、弥生時代から古墳時代に至る同時期に存在していた遺跡が多く密集している。弥生時代後期～中世まで続く二口油免遺跡をはじめ、弥生時代中期～古代までの集落遺跡である本田宮田遺跡、古墳時代と古代の集落とされる棚田遺跡、弥生時代後期～近世までの集落遺跡の本江畑田Ⅱ遺跡などがそれである。



第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡（1／50,000）

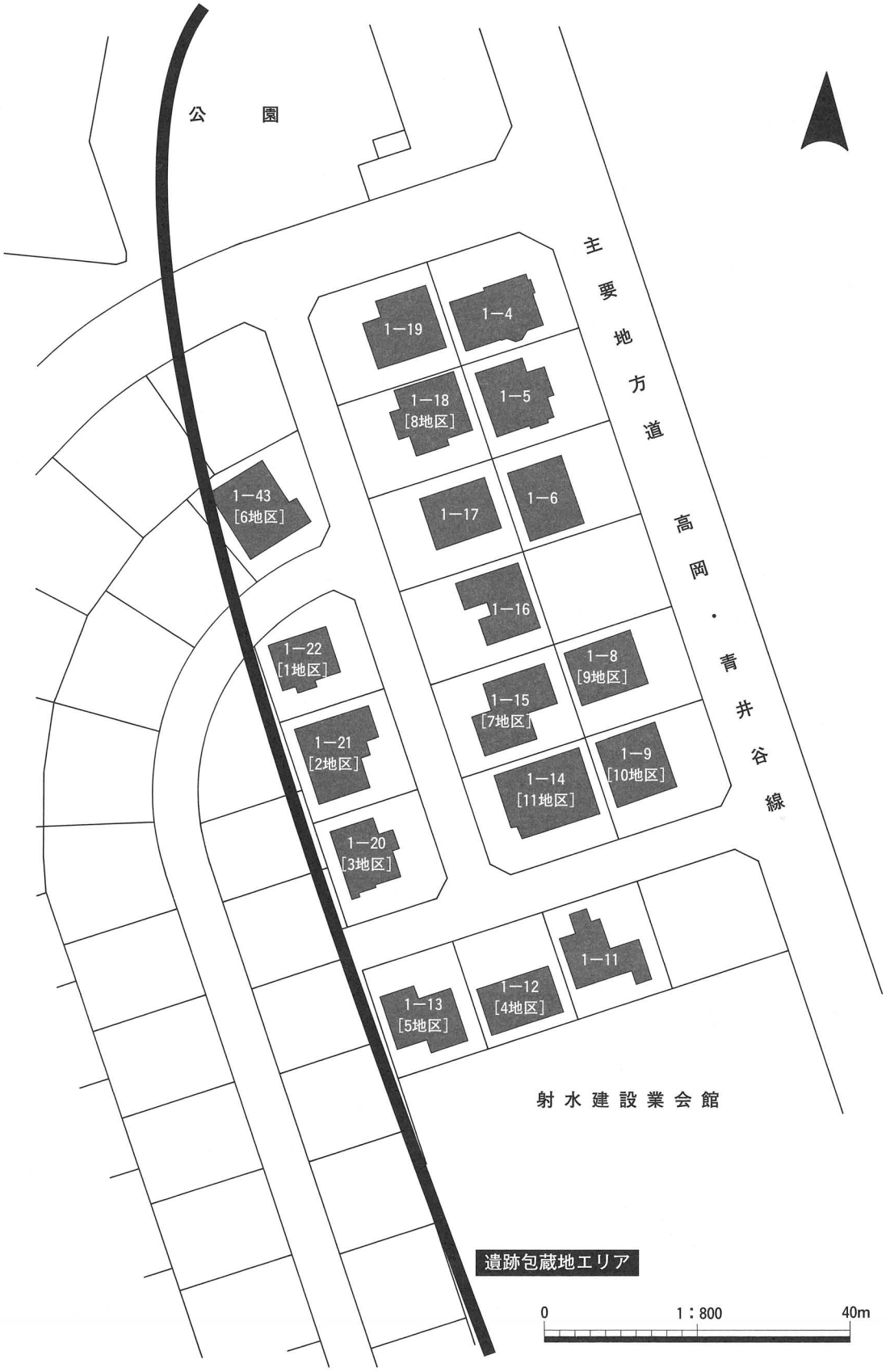
❶．本江畑田Ⅰ遺跡　❷．高島Ａ遺跡　❸．北高木遺跡　❹．二口油免遺跡　❺．本江畑田Ⅱ遺跡　❻．棚田遺跡　❼．本田宮田遺跡　❽．小杉伊勢領遺跡
❾．小杉丸山遺跡　❿．小杉流通業務団地内遺跡　⓫．上野南遺跡　⓬～⓮．赤坂Ａ～Ｄ遺跡　⓰～⓲．石太郎Ｇ～Ｊ遺跡　⓳．黒河尺目遺跡

第２章　調査に至る経緯

平成15年度、大門町本江（現：射水市あおば台）地内で土地区画整理事業の計画が事業者から町教育委員会に提出され、埋蔵文化財包蔵地の有無、その取り扱いについて照会を受けた。事業計画地約７haを対象に235区画に整理、宅地分譲するもので、平成16年度からの施工計画であった。町教育委員会は、平成７年度に県営ほ場整備事業に伴い実施した試掘調査より、事業計画地の一部である庄川河岸段丘上の約１haに埋蔵文化財包蔵地（本江畑田Ⅰ遺跡）が良好に遺存することを確認しており、その保護措置について事業者と協議を重ねた。その結果、宅地部分は盛土保存を実施するよう要請しながら、今後個別に協議することで合意に達した。しかし、区画道路部分においては計画変更による現状保存は困難と判断し、記録保存を前提とした本発掘調査の方向で協議を進め、平成16年10月から実施した。平成17年度、造成工事完了とともに分譲が開始され、21区画で遺跡の保護措置が必要となった。宅地部分においては工事が地下遺構に与える影響を判断しながら、随時調査を実施することになり12区画が終了した。平成18年度は、６月から11月まで順次着手し６区画が終了した。残り３区画においては平成19年度以降の対応となった。

年度	No.	所在地	用途	調査期間	調査種類	対象面積	発掘面積	検出遺構	出土遺物
16	1	本江751－1 外17筆	道路	10.28～2.24	本発掘	1,346㎡	1,346㎡	溝・土坑・井戸・掘立柱建物・竪穴建物	弥生土器・管玉未成品・緑色凝灰岩・鉄石英・石英・砥石・土師器・珠洲
17	2	あおば台1－16	宅地	6.6	慎重工事	221㎡	78㎡		
	3	あおば台1－19	宅地	6.10	慎重工事	244㎡	82㎡		
	4	あおば台1－21	宅地	6.15～7.9	本発掘	203㎡	116㎡	溝・土坑	弥生土器
	5	あおば台1－20	宅地	6.15～7.9	本発掘	208㎡	84㎡	溝・土坑	弥生土器・須恵器
	6	あおば台1－22	宅地	7.13～7.22	本発掘	189㎡	69㎡	溝・土坑	弥生土器
	7	あおば台1－12	宅地	11.18～12.13	本発掘	187㎡	49㎡	溝・土坑	弥生土器・須恵器・石斧
	8	あおば台1－13	宅地	11.18～12.15	本発掘	187㎡	48㎡	溝・土坑	弥生土器・土師器・須恵器 鉄滓
	9	あおば台1－6	宅地	12.2	慎重工事	213㎡	62㎡		
	10	あおば台1－11	宅地	12.7	慎重工事	194㎡	70㎡		
	11	あおば台1－43	宅地	12.2～12.22	本発掘	212㎡	66㎡	溝・土坑	
	12	あおば台1－4	宅地	2.3	慎重工事	231㎡	80㎡		
	13	あおば台1－5	宅地	2.8	慎重工事	213㎡	79㎡		
18	14	あおば台1－17	宅地	4.28	慎重工事	221㎡	67㎡		
	15	あおば台1－15	宅地	6.13～6.27	本発掘	221㎡	75㎡	溝・土坑	弥生土器・管玉未成品・緑色凝灰岩・鉄石英
	16	あおば台1－18	宅地	6.14～6.30	本発掘	221㎡	58㎡	溝・土坑・井戸	弥生土器・土師器・須恵器
	17	あおば台1－8	宅地	8.22～9.12	本発掘	214㎡	66㎡	溝・土坑・周溝式掘立柱建物	弥生土器
	18	あおば台1－9	宅地	8.23～9.20	本発掘	228㎡	67㎡	溝・井戸	弥生土器・須恵器・珠洲・青磁
	19	あおば台1－14	宅地	10.16～11.8	本発掘	208㎡	106㎡	溝・土坑	弥生土器・勾玉・管玉未成品・ガラス小玉・緑色凝灰岩・鉄石英・石英

第１表　本江土地区画整理事業地内（あおば台）調査一覧



第3図　調査地位置図（1／800）

第３章　調査の概要

本発掘調査の経過

試掘調査及び平成16年度本発掘調査の結果を受け、本江土地区画整理事業地における宅地部分について本発掘調査の必要性が検討され、平成17年度６箇所、平成18年度５箇所の合計11箇所（発掘調査面積804㎡）の調査を実施した。いずれの地区も造成工事により山砂の盛土がなされているため、重機で盛土と旧耕作土を除去し、その後に作業員を投入して包含層掘削・遺構検出・遺構掘削を行った。進捗状況に応じて、写真撮影や遺構平面図作成などの図化・記録作業を順次実施した。調査終了後は全ての地区で埋め戻しを行い現況復帰を図っている。

基本層序

各調査区の基本層序は１～４層に分層される。上から１層目には山砂で厚さ約20㎝の盛土がなされて、山砂の下に約20～60㎝の旧耕作土等、10～30㎝の遺物包含層が堆積する。地山面は現況地盤より約30～120㎝の深さで検出される。４・５・７～11地区では基本層序に準じた堆積がみられるが、１～３・６地区は遺物包含層直上に盛土が堆積し、造成時に旧耕作土の削平を受けたものとみられる。

第１層	にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）	粘性なし・しまりなし・山砂の盛土
第２層	灰色粘質土（５Y5/1）	粘性なし・しまりなし・旧耕作土等
第３層	褐灰色粘質土（10YR4/1）	粘性あり・しまりあり・遺物包含層
第４層	黒褐色粘質土（10YR3/1）	粘性あり・しまりあり・遺物包含層
地山土	灰黄色粘質土（2.5Y7/2）	粘性あり・しまりあり・シルト質含む

調査区概要

１地区は発掘面積69㎡、地山面の標高は約8.4mである。遺構は溝１条、柱穴状土坑26基を検出しており、遺物は弥生土器が出土している。

２地区は発掘面積116㎡、地山面の標高は約8.4mである。遺構は溝２条、土坑３基、柱穴状土坑30基を検出しており、遺物は弥生土器が出土している。

３地区は発掘面積84㎡、地山面の標高は約8.4mである。遺構は溝６条、土坑１基、柱穴状土坑23基を検出しており、遺物は弥生土器や平安時代の須恵器が出土している。

４地区は発掘面積49㎡、地山面の標高は約8.6mである。遺構は溝２条、柱穴状土坑14基を検出しており、遺物は弥生土器（壷・甕・高坏）、磨製石斧（未成品）、須恵器などの遺物が出土している。

５地区は発掘面積48㎡、地山面の標高は約8.6mである。遺構は溝７条、土坑１基、柱穴状土坑14基を検出しており、遺物は弥生土器、平安時代の土師器・須恵器・鉄滓などの遺物が出土している。

６地区は発掘面積66㎡、地山面の標高は約8.1mである。遺構は土坑１基、柱穴状土坑35基を検出し、遺物の出土はない。

７地区は発掘面積75㎡、地山面の標高は約8.6mである。遺構は溝３条、土坑３基、柱穴状土坑９基を検出しており、遺物は弥生土器、管玉未成品、緑色凝灰岩・鉄石英の剥片が出土している。

８地区は発掘面積58㎡、地山面の標高は約８mである。遺構は溝２条、土坑２基、井戸１基を検出しており、遺物は弥生土器と平安時代の土師器・須恵器が出土している。

９地区は発掘面積66㎡、地山面の標高は約8.5mである。遺構は溝４条、土坑３基、柱穴状土坑11基、周溝式掘立柱建物１棟を検出しており、遺物は弥生土器が出土している。

10地区は発掘面積67㎡、地山面の標高は約8.4mである。遺構は溝２条、土坑１基、井戸１基を検

出しており、遺物は弥生土器と平安時代の須恵器、室町時代の珠洲・青磁が出土している。

11地区は発掘面積106㎡、地山面の標高は約8.5mである。遺構は溝５条、土坑19基を検出しており、遺物は弥生土器、勾玉・管玉・ガラス小玉、緑色凝灰岩・鉄石英の残核、剥片が出土している。

第４図　発掘区位置図（1／500）

第１節　本発掘調査１地区

１号溝（SD01、第５図、図版１）

１地区の北東側に位置し、U字状にカーブする溝である。幅20cm～30cmで、全長2.3mを検出し、東端は発掘区外へ伸び、西端はカクランに切られる。深さは最深で約30cmを測り、覆土は黒褐色～黒色粘質シルトが堆積する。遺物は小破片のため図化できるものはないが、弥生土器が出土している。

３号柱穴状土坑（SP03、第５図、図版１）

１地区の南東側に位置する円形柱穴状土坑である。規模は直径36cm、深さは37cm。断面は逆台形を呈する。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。

４号柱穴状土坑（SP04、第５図）

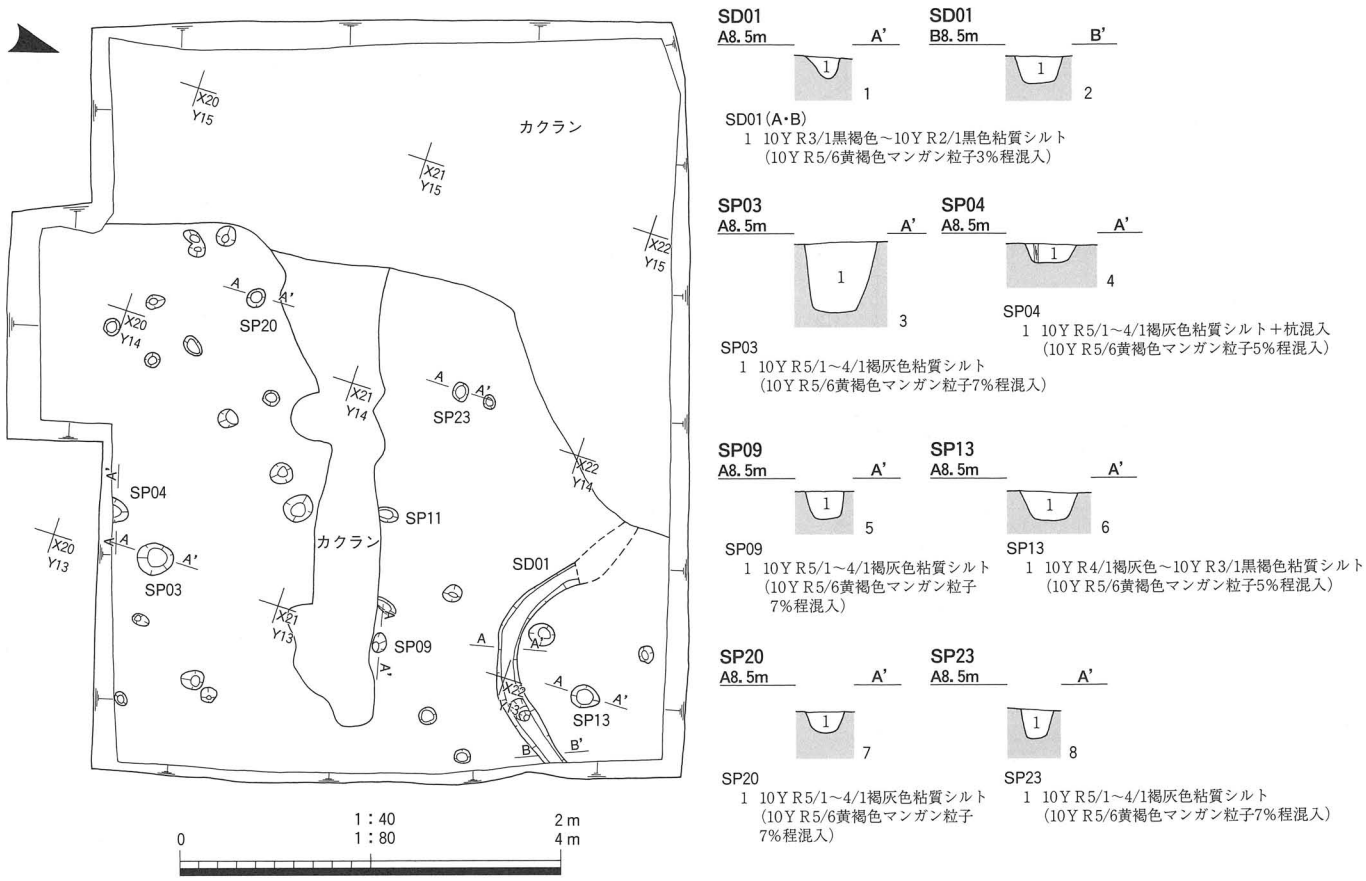
１地区の南東部、SP03の南側に位置する柱穴状土坑である。発掘区外へ伸びるため、正確な外形不明。断面は逆台形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。杭が出土しているため、柱穴の可能性が考えられる。遺物の出土はない。

９号柱穴状土坑（SP09、第５図、図版１）

１地区の東側に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸20cm、短軸13cm、深さ15cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。

包含層出土遺物（第18図）

包含層からは弥生土器が出土している。第18図１は口径10cmを測る弥生時代終末期の月影式（下老子Ⅲ式）の壷口縁部である。



第５図　遺構実測図［１地区］（1／80, 断面図1／40）
SD01(1・2)　SP03(3)　SP04(4)　SP09(5)　SP13(6)　SP20(7)　SP23(8)

第２節　本発掘調査２地区

１号溝（SD01、第６図、図版２）

２地区の南側に位置する幅36cm～74cmの溝である。北西－南東方向に直線的に伸び、全長3.8m を検出。南端は発掘区外へ伸び、北端は SD02に切られていることから SD02より古い段階のものである。断面は主に逆台形を呈し、深さは17cm～36cmを測る。覆土は褐灰色粘質シルトが主体的に堆積する。遺物は弥生土器が出土している。

１号土坑（SK01、第６図）

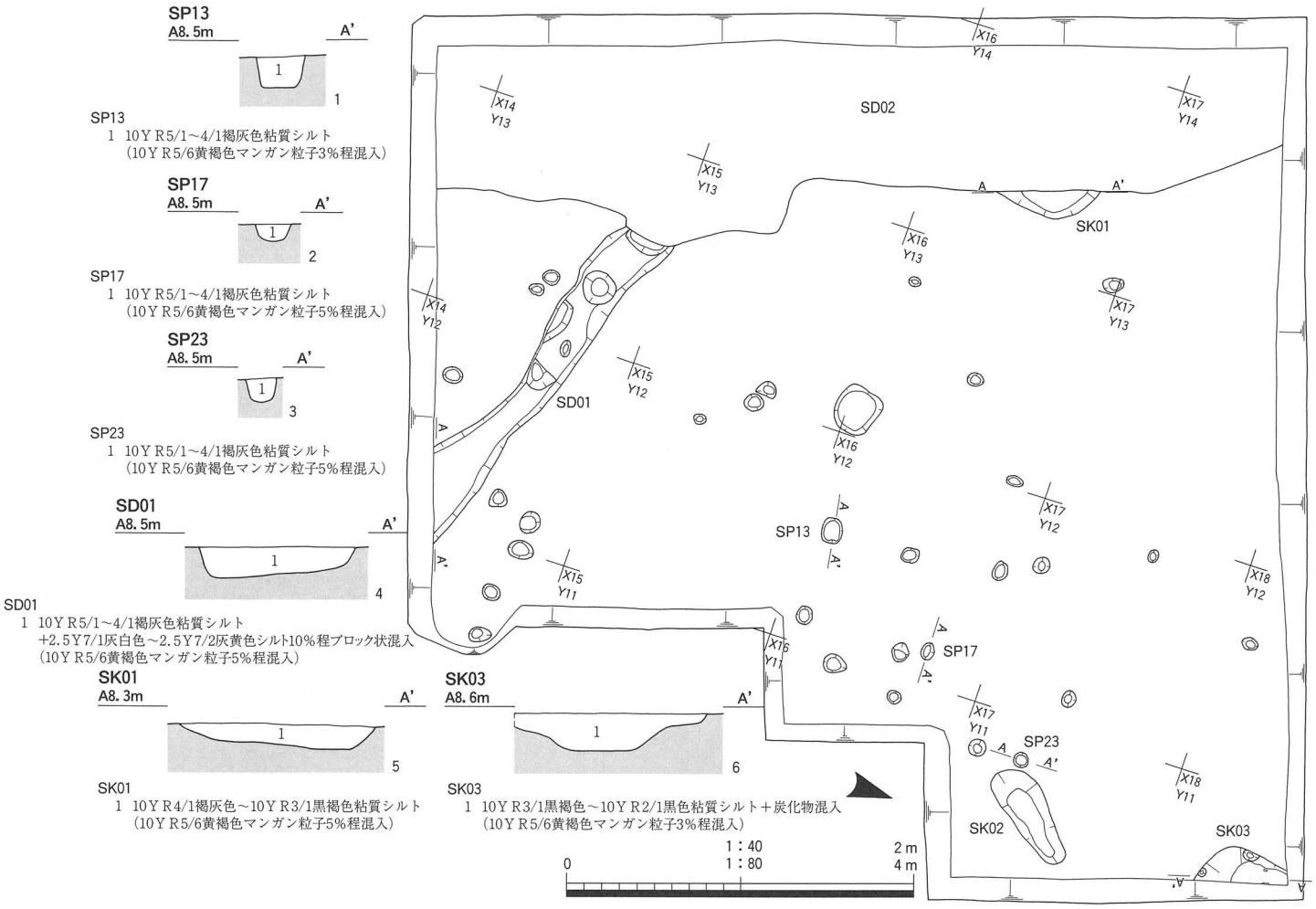
２地区の西側に位置する土坑である。SD02に切られているため、正確な外形は不明。断面は皿状を呈し、褐灰色～黒褐色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。

３号土坑（SK03、第６・18図、図版２）

２地区の北東端に位置する土坑である。発掘区外へ伸びるため、正確な外形不明。断面は不整形を呈し、黒褐色～黒色粘質シルトが堆積、炭化物が混入する。遺物は弥生土器が出土している。第18図２は高坏の破片である。

13号柱穴状土坑（SP13、第６図、図版２）

２地区の中央部に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸28cm、短軸24cm、深さ18cmで、断面は逆台形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。



第６図　遺構実測図　［２地区］（1／80,断面図1／40）

SP13(1)　SP17(2)　SP23(3)　SD01(4)　SK01(5)　SK03(6)

第３節　本発掘調査３地区

１号溝（SD01、第７・18図）

３地区の中央に位置する南北溝である。全長約8.2mを検出し、SD02と平行に伸び両端とも発掘区外へ伸びる。SD02に切られていることから正確な規模は不明であるが、時期はより古い。覆土は褐灰色～黒褐色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土。第18図４は甕ないし壷の底部である。

３号溝（SD03、第７図、図版３）

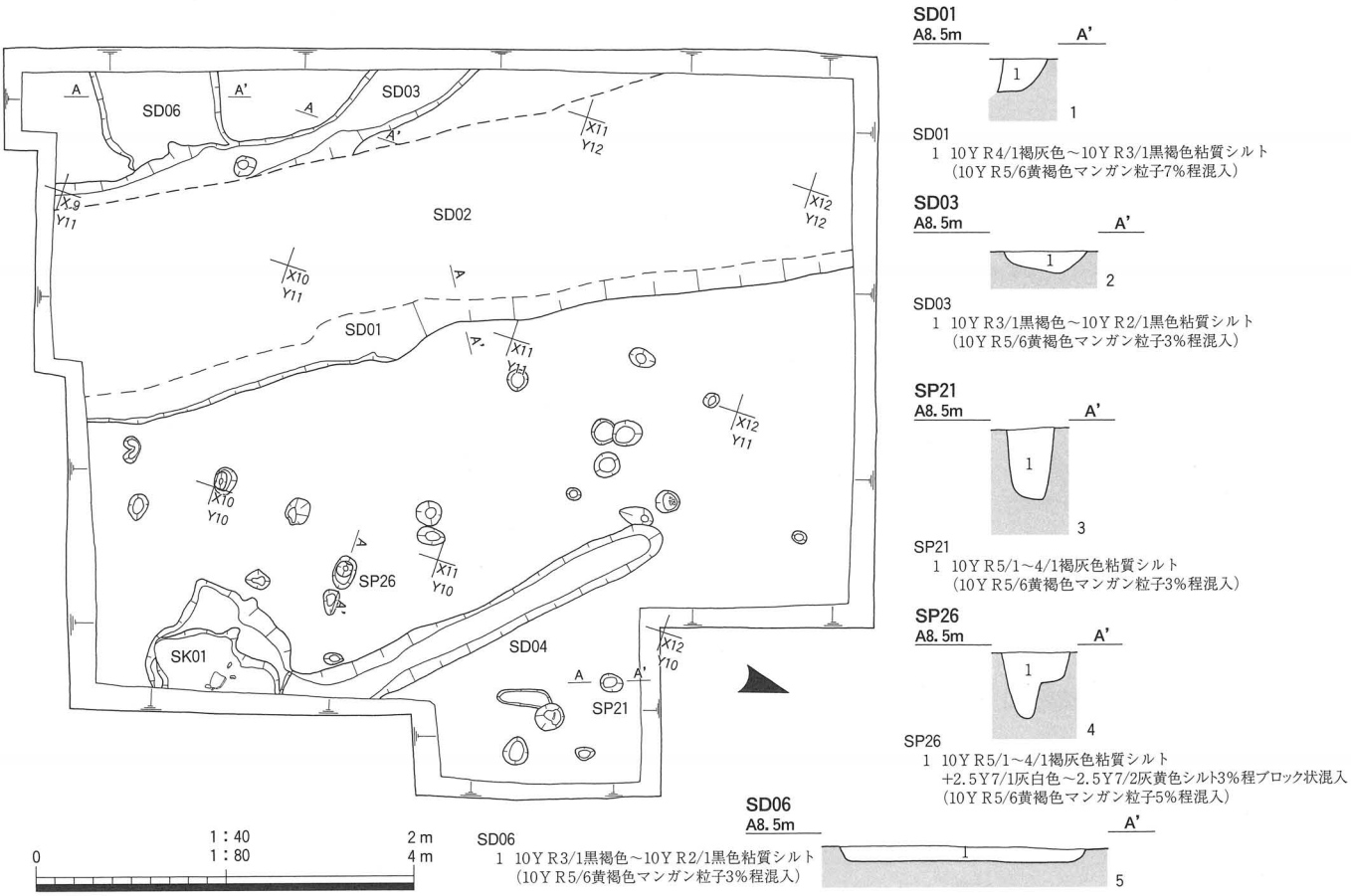
３地区の西側に位置する南北溝である。幅42cm～90cm、全長4.2mを検出。北端は発掘区外へ伸びるが、南端はSD02に切られ途中でSD06と交差する。新旧関係はSD02より古く、SD06とは同時期存在と考えられる。断面は概ね弧状を呈し、覆土は黒褐色～黒色粘質シルトが堆積する。遺物は小破片のため図化できるものはないが、時期は弥生時代のものである。

21号柱穴状土坑（SP21、第７図）

３地区の北東側に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸25cm、短軸18cm、深さ38cmで、断面は概ね逆台形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は土師器・須恵器が出土している。

26号柱穴状土坑（SP26、第７・18図）

３地区の中央部やや東側に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸35cm、短軸23cm、深さは最深で35cmを測る。断面は不整形を呈し、東側底面は一段テラス状に高くなる。覆土は褐灰色粘質シルトが主体的に堆積し、地山土が一部混入する。遺物は弥生土器が出土。第18図３は口径16.5cmの有段口縁の甕である。時期は弥生時代後期後半の法仏式（下老子Ⅱ式）のものである。



第７図　遺構実測図　［３地区］（1／80,断面図1／40）

SD01(1)　SD03(2)　SP21(3)　SP26(4)　SD06(5)

第４節　本発掘調査４地区

15号溝（SD15、第８・９・18・19図、図版４・12・13）

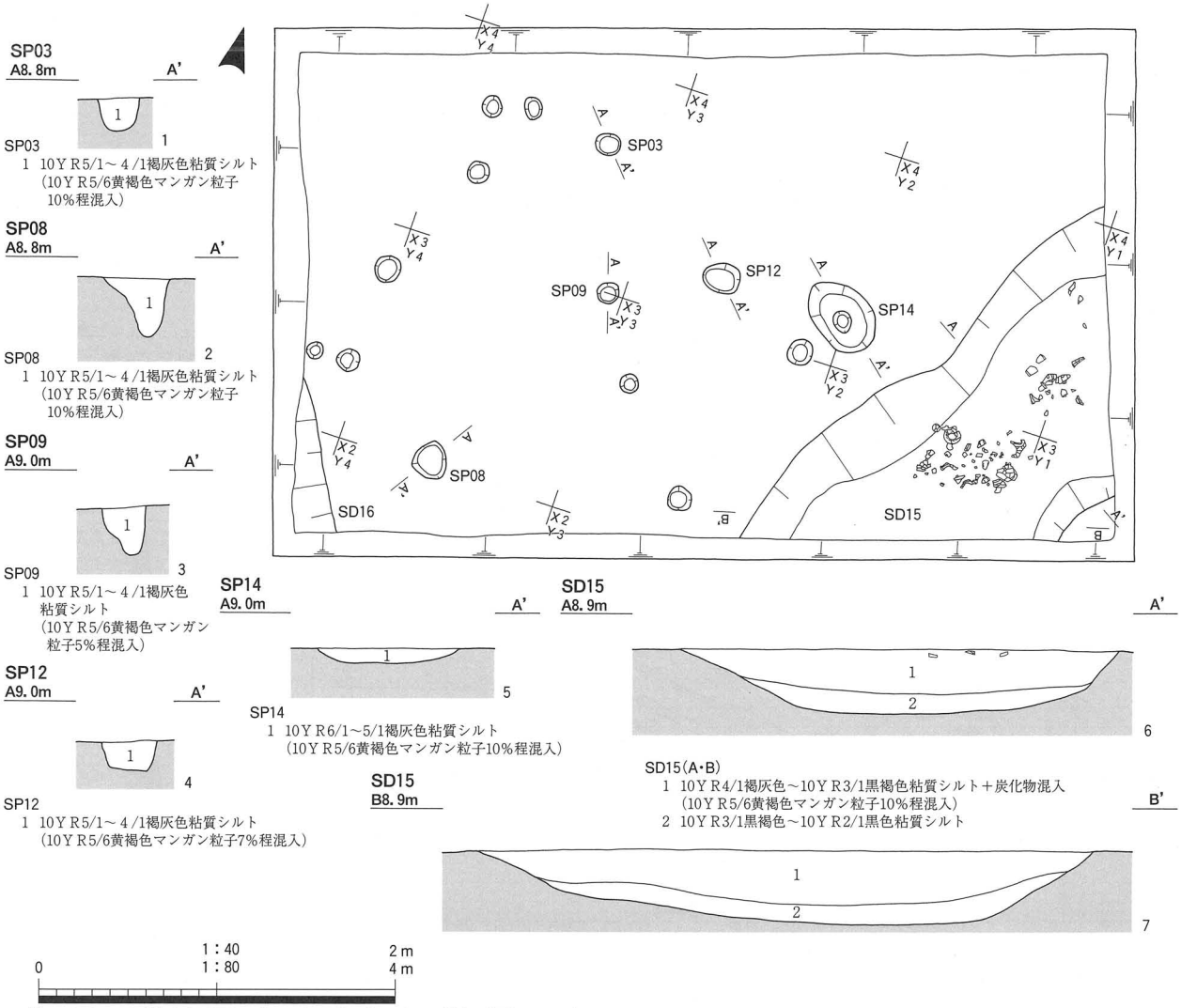
４地区の南東隅に位置する幅230cm～330cmの溝である。全長約３ｍを検出。両端とも発掘区外へ伸びる。断面は弧状を呈し、深さは最深で42cmである。覆土は黒褐色粘質シルトが主体的に堆積し、炭化物も混入する。遺物は弥生土器・石製品が出土している。第18図６～17は口径14.2cm～29.4cmの弥生土器甕。口縁部が有段状のもの、擬凹線文を施すもの、受口状のものがある。第19図19は口径12.2cmの弥生土器壷。口縁部外面は縦方向、内面は横方向の刷毛目調整が施されている。21は頂部が凹んだ弥生土器蓋。23～27は高坏。時期は弥生時代後期後半の法仏式（下老子Ⅱ式）のものである。28～32は甕ないし壷の底部片。33は磨製石斧の未成品。敲打痕が残り未研磨状態である。

12号柱穴状土坑（SP12、第８図）

４地区の中央部に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸42cm、短軸35cm、深さ16cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。

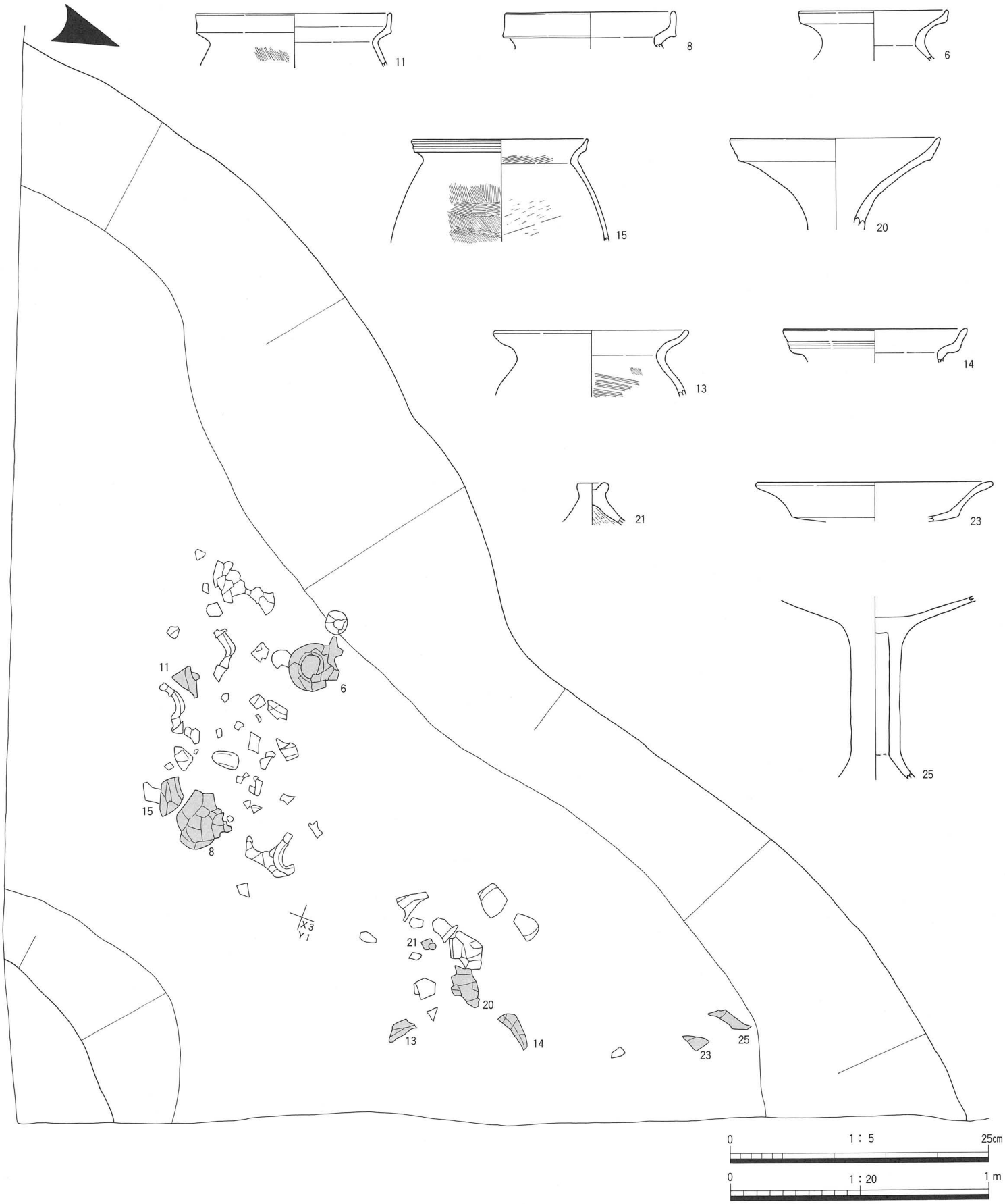
14号柱穴状土坑（SP14、第８図）

４地区の中央部、SP12の東側に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸92cm、短軸62cm、深さ８cmで、断面は皿状を呈する。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土。



第８図　遺構実測図　［４地区］（1／80,断面図1／40）

SP03(1)　SP08(2)　SP09(3)　SP12(4)　SP14(5)　SD15(6･7)



第９図　遺構実測図　［４地区］　SD15（1／20,遺物実測図1／5）

第５節　本発掘調査５地区

１号溝（SD01、第10図）

５地区の北東側に位置する幅約30cmの溝である。北東－南西方向に直線的に伸び、途中途切れるものの全長約６ｍを検出。両端とも発掘区外へ伸びる。新旧関係は交差するSD03・SD17より新しい。断面は逆台形を呈し、深さ７cmと浅い。覆土は黄灰色～暗灰黄色シルトが堆積する。遺物出土なし。

17号溝（SD17、第10・20図、図版14）

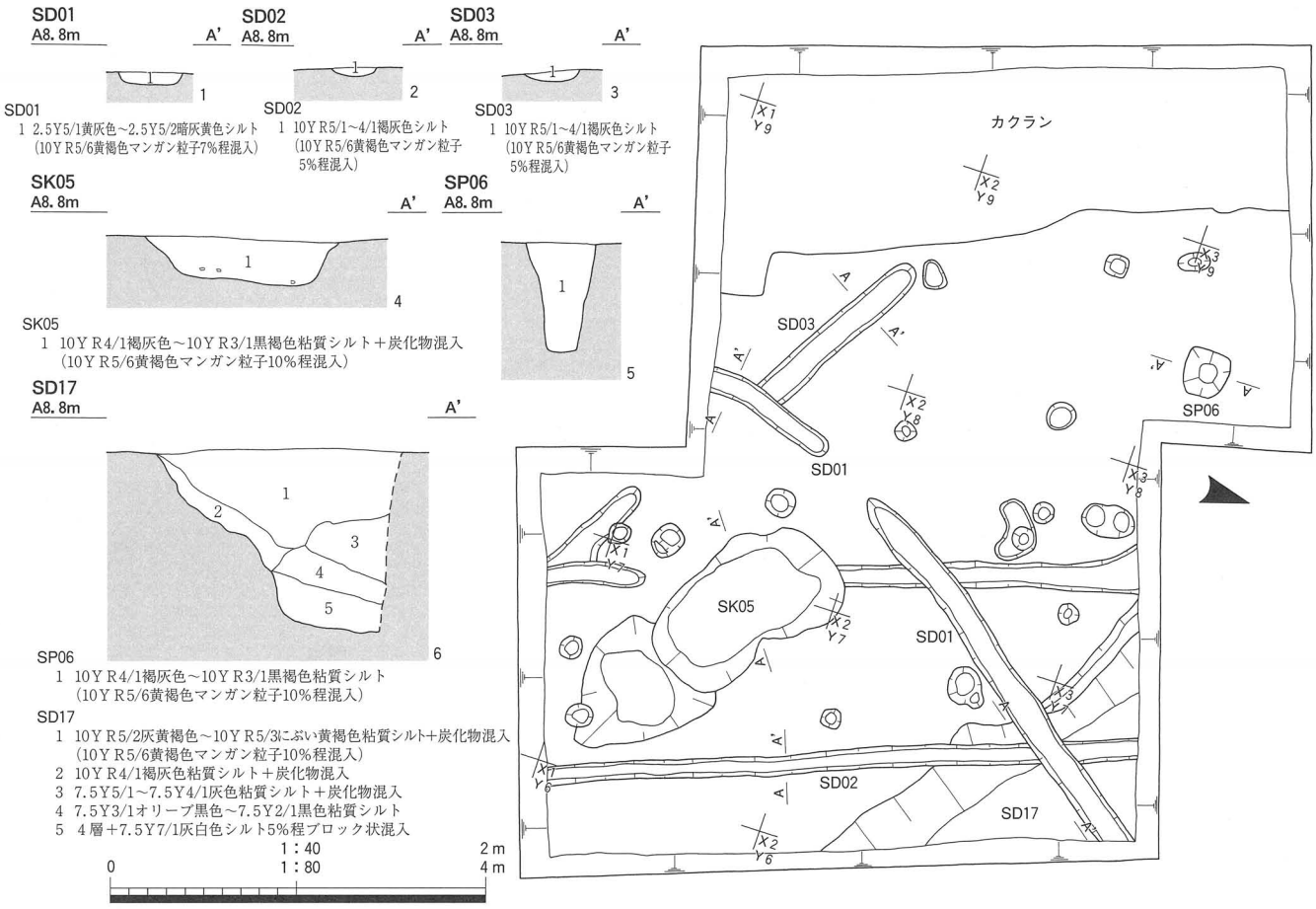
５地区の北東隅に位置する溝である。全長約４ｍを検出し、北端は発掘区外、南端は４区のSD16に繋がる流れと考える。新旧関係は途中交差するSD01・SD02より古い。覆土は炭化物を含む灰黄褐色粘質シルト層が厚く堆積し、土層は５層に細分される。深さは最深で１ｍを測る。遺物は土師器・須恵器・鉄滓が出土している。第20図43・44は須恵器甕の胴部片である。内面は当て具痕の同心円文が残る。45は口径27.9cmの土師器鍋。時期は９世紀代のものである。

５号土坑（SK05、第10・20図、図版５・14）

５地区の中央やや南東側に位置する不整形な土坑である。規模は長軸330cm、短軸110cm、深さ24cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は褐灰色～黒褐色粘質シルトが堆積し、炭化物が混入する。遺物は弥生土器が出土。第20図41は弥生時代後期後半の法仏式（下老子Ⅱ式）の壷口縁部である。

６号柱穴状土坑（SP06、第10図、図版５）

５地区の北西側に位置する隅丸方形柱穴状土坑である。規模は長軸50cm、短軸38cm、深さ58cmを測る。断面は漏斗状を呈し、覆土は褐灰色～黒褐色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。



第10図　遺構実測図　［５地区］（1／80,断面図1／40）

SD01(1)　SD02(2)　SD03(3)　SK05(4)　SP06(5)　SD17(6)

第６節　本発掘調査６地区

１号土坑（SK01、第11図、図版６）

６地区の北側に位置する不整形土坑である。規模は長軸158cm、短軸70cm、深さ42cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は上層に黄灰色砂質シルト、下層に灰色～オリーブ黒色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。

６号柱穴状土坑（SP06、第11図、図版６）

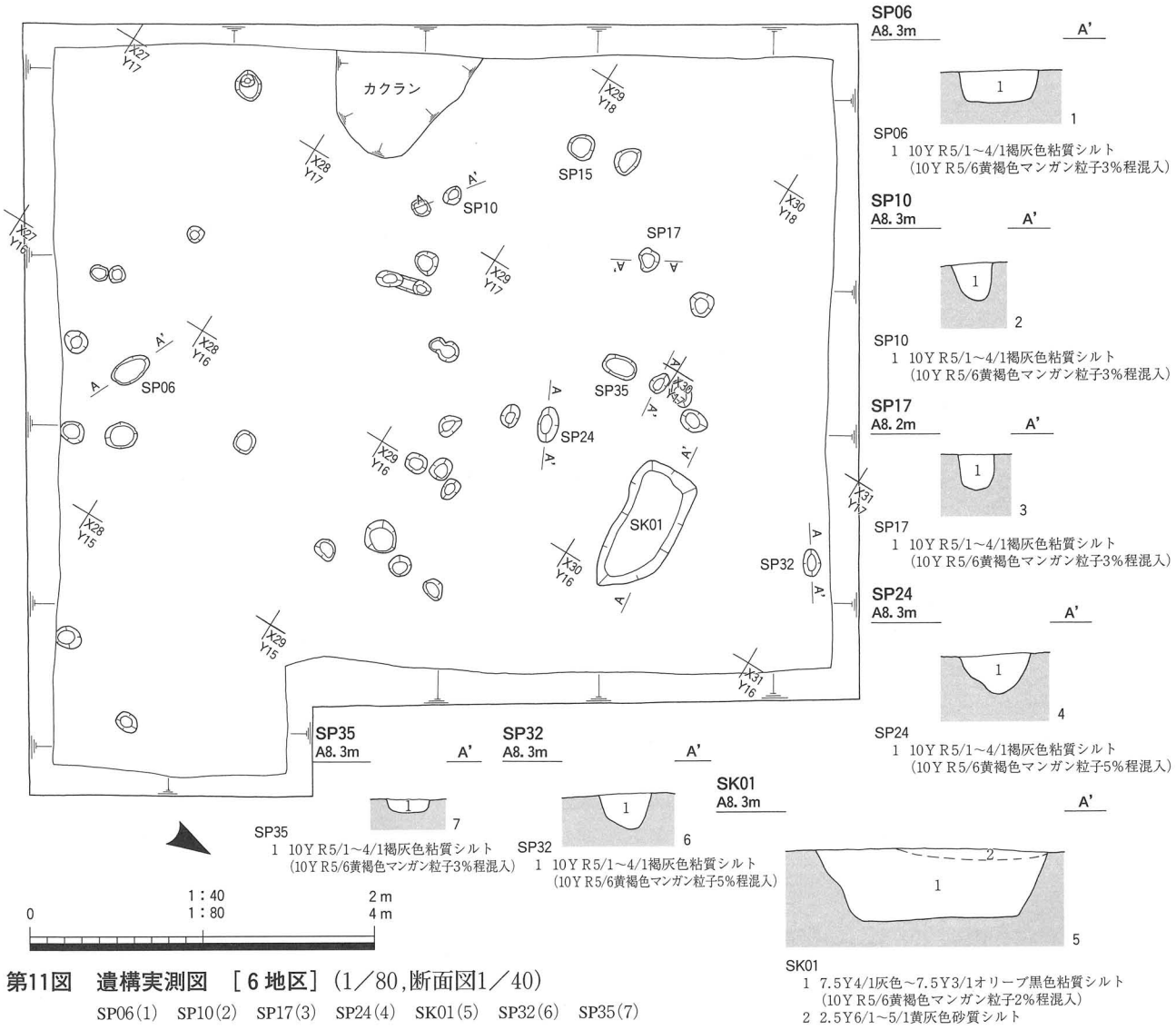
６地区の南側に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸45cm、短軸27cm、深さ19cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。

17号柱穴状土坑（SP17、第11図）

６地区の中央部やや北西側に位置する不整形柱穴状土坑である。断面はＵ字形を呈し、深さは20cmを測る。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。

24号柱穴状土坑（SP24、第11図、図版６）

６地区の中央に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸40cm、短軸24cm、深さは最深で23cmを測る。断面は概ね半円形を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。６地区からは遺物の出土がないため、遺構の時期が不明である。



第11図　遺構実測図　［６地区］（1／80,断面図1／40）

SP06(1)　SP10(2)　SP17(3)　SP24(4)　SK01(5)　SP32(6)　SP35(7)

第７節　本発掘調査７地区

１号溝（SD01、第12・20・21図、図版14）

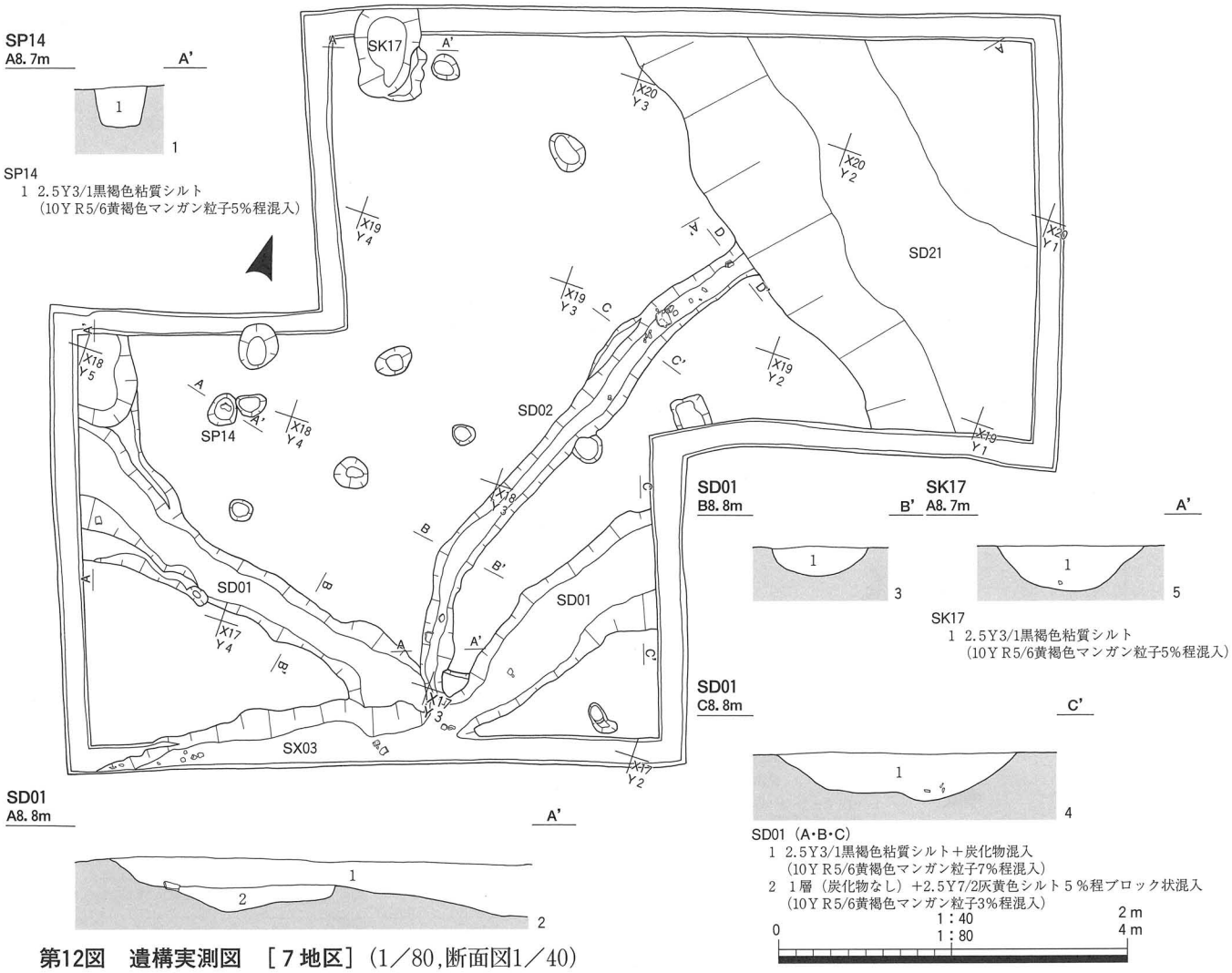
７地区の南側に位置し、東西方向に直線的、途中からほぼ直角に北側へ伸びる溝である。全長8.4ｍを検出し、両端とも発掘区外へ伸びる。覆土は炭化物を含む黒褐色粘質シルトが堆積し、深さは最深で32cmを測る。遺物は弥生土器・管玉未成品及び剥片が出土。第20図49は弥生時代後期後半の法仏式（下老子Ⅱ式）の擬凹線短頸壷である。51は緑色凝灰岩の管玉未成品で穿孔時に破損したものと考えられる。

２号溝（SD02、第12・13図、図版７・15）

７地区の中央に位置する南北溝である。幅28cm～55cm、全長約６ｍを検出。南端はSD01と合流し、北端はSD21に切られるが９地区のSD04に繋がる流れと考える。新旧関係はSD21より古く、SD01とは同時期と考えられる。断面は主に逆台形を呈し、覆土は炭化物を含む黒褐色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器・鉄石英剥片が出土。第13図57は連続刺突文を６列施す高坏の有段脚部片である。

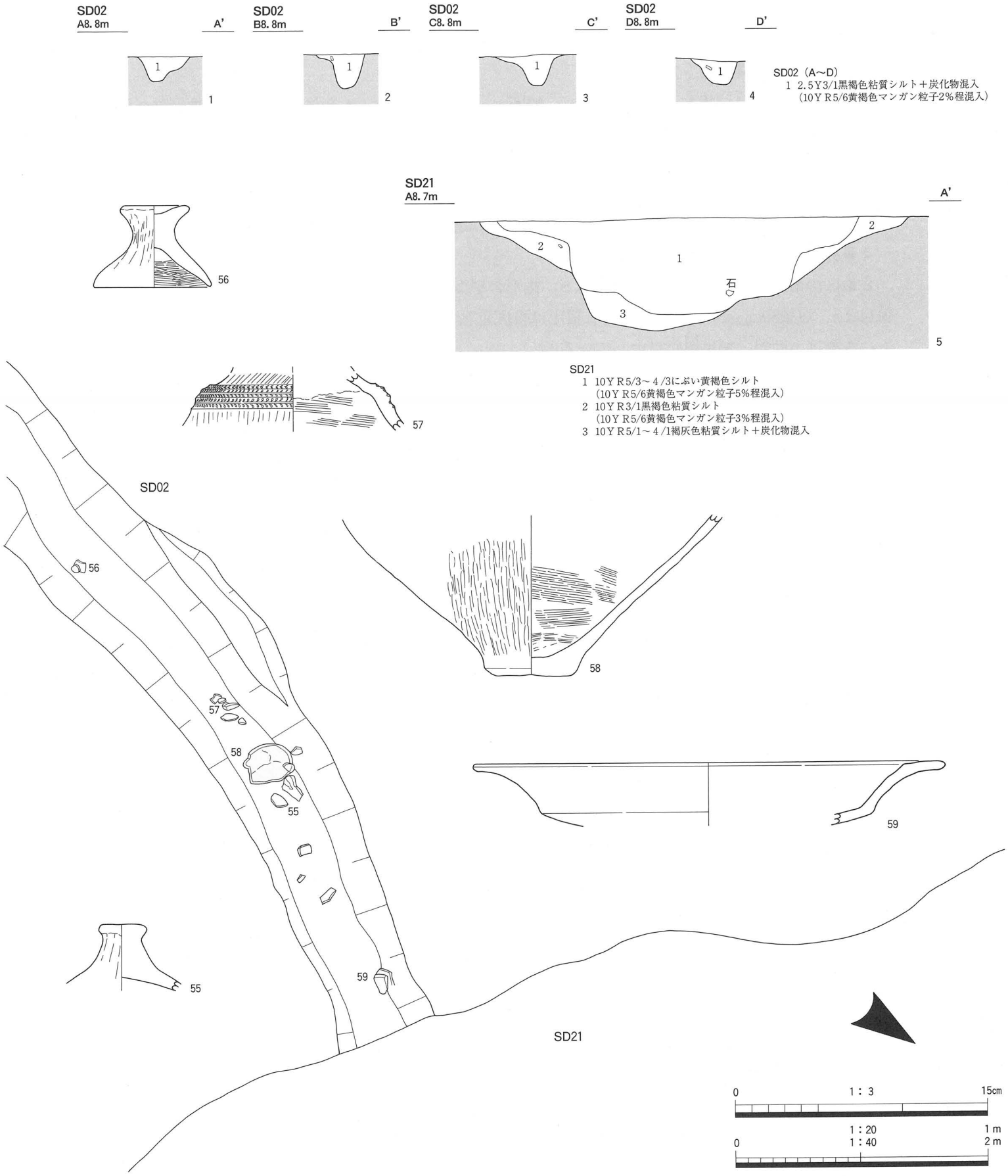
14号柱穴状土坑（SP14、第12図、図版７）

７地区の西側に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸38cm、短軸30cm、深さは最深で24cmを測る。断面は逆台形を呈し、覆土は黒褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が地山直上から出土している。



第12図　遺構実測図　［７地区］（1／80,断面図1／40）

SP14(1)　SD01(2～4)　SK17(5)



第13図　遺構実測図　［７地区］　SD02（1／20,断面図1／40,遺物実測図1／3）

SD02(1～4)　SD21(5)　7地区:SD02(55～59)

第８節　本発掘調査８地区

３号溝（SD03、第14図、図版８）

８地区の北西側に位置する南北溝である。幅28cm～86cm、全長約３ｍを検出。北端は発掘区外へ伸び、南端は試掘トレンチにより消滅する。覆土はにぶい黄褐色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。

５号土坑（SK05、第14図、図版８）

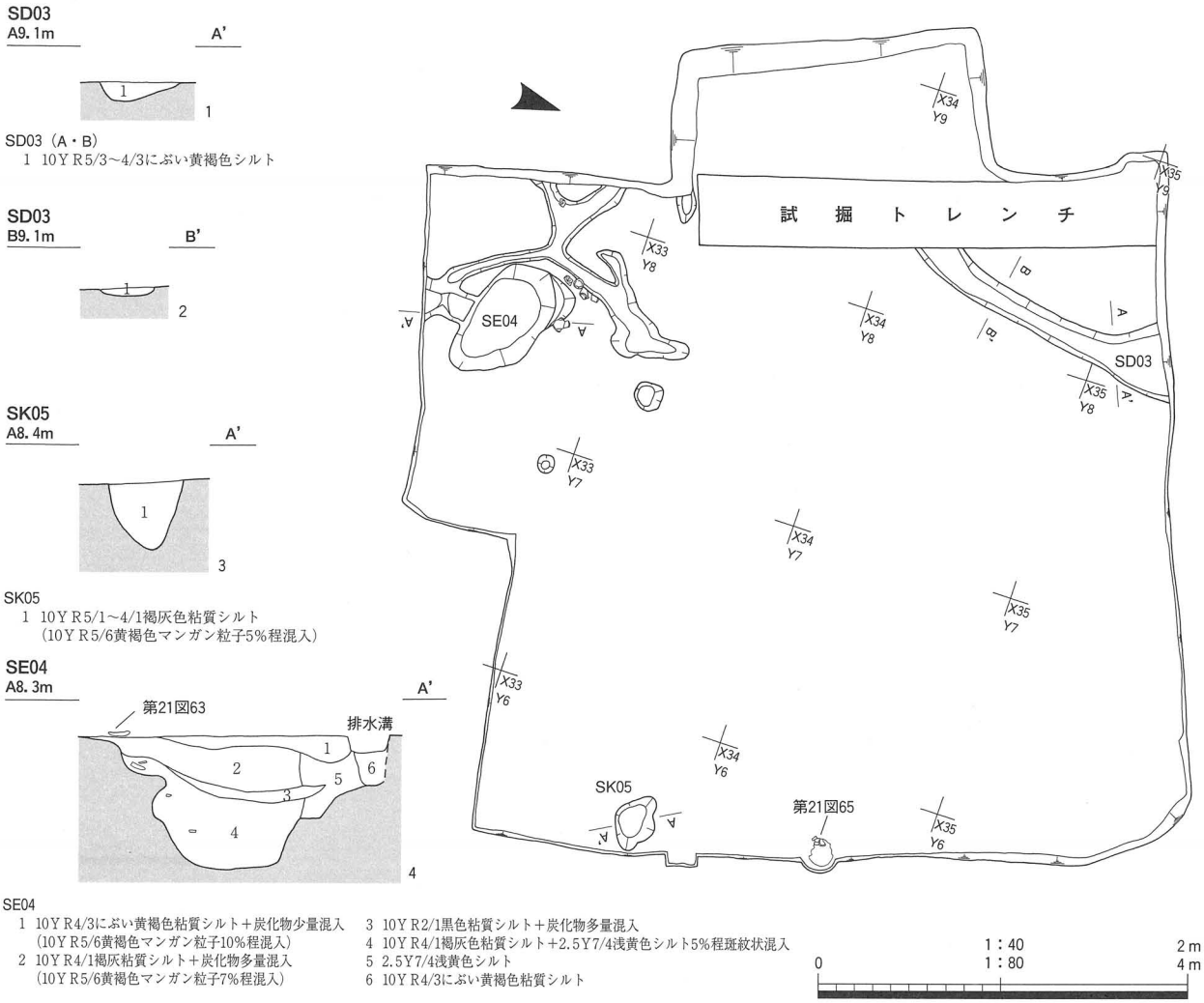
８地区の東側に位置する不整形土坑である。規模は長軸64cm、短軸47cm、深さ37cmで、断面は半楕円形を呈する。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。

４号井戸（SE04、第14図、図版８）

８地区の南側に位置する素掘井戸である。掘形の平面は楕円形、断面は漏斗状を呈する。規模は長軸142cm、短軸80cm、深さ76cmである。覆土は褐灰色粘質シルトが主体的に堆積し、炭化物も混入する。遺物は土師器・須恵器が出土している。

包含層出土遺物（第21図、図版15）

包含層からは土師器・須恵器が出土している。第21図60～64は土師器。60・61は皿、62～64は埦であり、時期は11世紀後半～12世紀初頭のものか。全て4号井戸付近、地山直上より出土しているため、儀式の供膳器として考えられる。65は弥生時代後期後半の法仏式（下老子Ⅱ式）の有段短頸壷である。



第14図　遺構実測図　［８地区］（1／80, 断面図1／40）

SD03(1･2)　SK05(3)　SE04(4)

第９節　本発掘調査９地区

１号溝（SD01、第15・21図、図版９・15）

９地区の南西側に位置する溝である。北西－南東方向に直線的に伸び、全長5.5mを検出。南端は発掘区外へ伸び、北端はSD03と合流する。断面は逆台形を呈し、覆土は褐灰色～黒褐色粘質シルトが堆積する。１号周溝式掘立柱建物の排水溝の機能を持つものと考えられる。遺物は弥生土器が出土している。第21図66は口径13.8cmを測る有段甕の口縁部である。

１号周溝式掘立柱建物（SB01、第15図、図版９、巻首図版１）

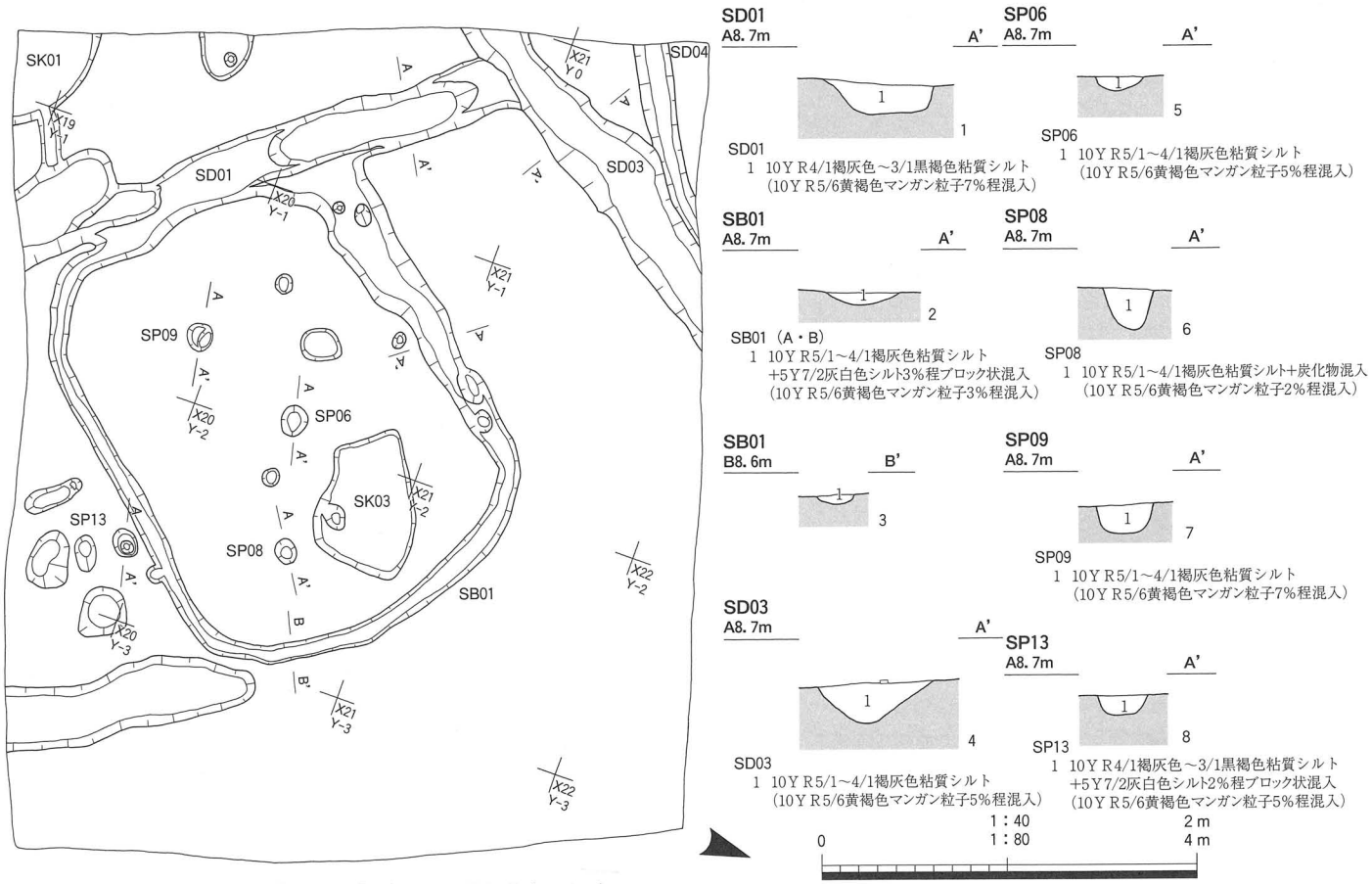
９地区の中央部に位置する。周溝は幅20cm～106cm、深さが最も浅い場所で約６cm、北西側で１号溝を共有しながら全周する。断面は概ね弧状を呈し、覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。平面は隅丸方形を呈し、長軸5.5m、短軸４mを測る。周溝内部には柱穴状土坑が検出されるが柱痕の遺存もなく、建物を構成するには至らなかった。本来はもう少し上層からの掘り込みがあり、削平の影響が考えられる。遺物は周溝・周溝内部ともに弥生土器が出土しているが、小破片のため図化できるものはない。

９号柱穴状土坑（SP09、第15図、図版９）

９地区の中央やや南側に位置する円形柱穴状土坑である。規模は直径30cm、深さは15cm。断面は逆台形を呈する。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物の出土はない。

13号柱穴状土坑（SP13、第15図、図版９）

９地区の南東側に位置する楕円形柱穴状土坑である。規模は長軸33cm、短軸25cm、深さ10cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は褐灰色～黒褐色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土している。



第15図　遺構実測図　［９地区］（1／80,断面図1／40）

SD01(1)　SB01(2･3)　SD03(4)　SP06(5)　SP08(6)　SP09(7)　SP13(8)

第10節　本発掘調査10地区

1号溝（SD01、第16・21図、図版10・16）

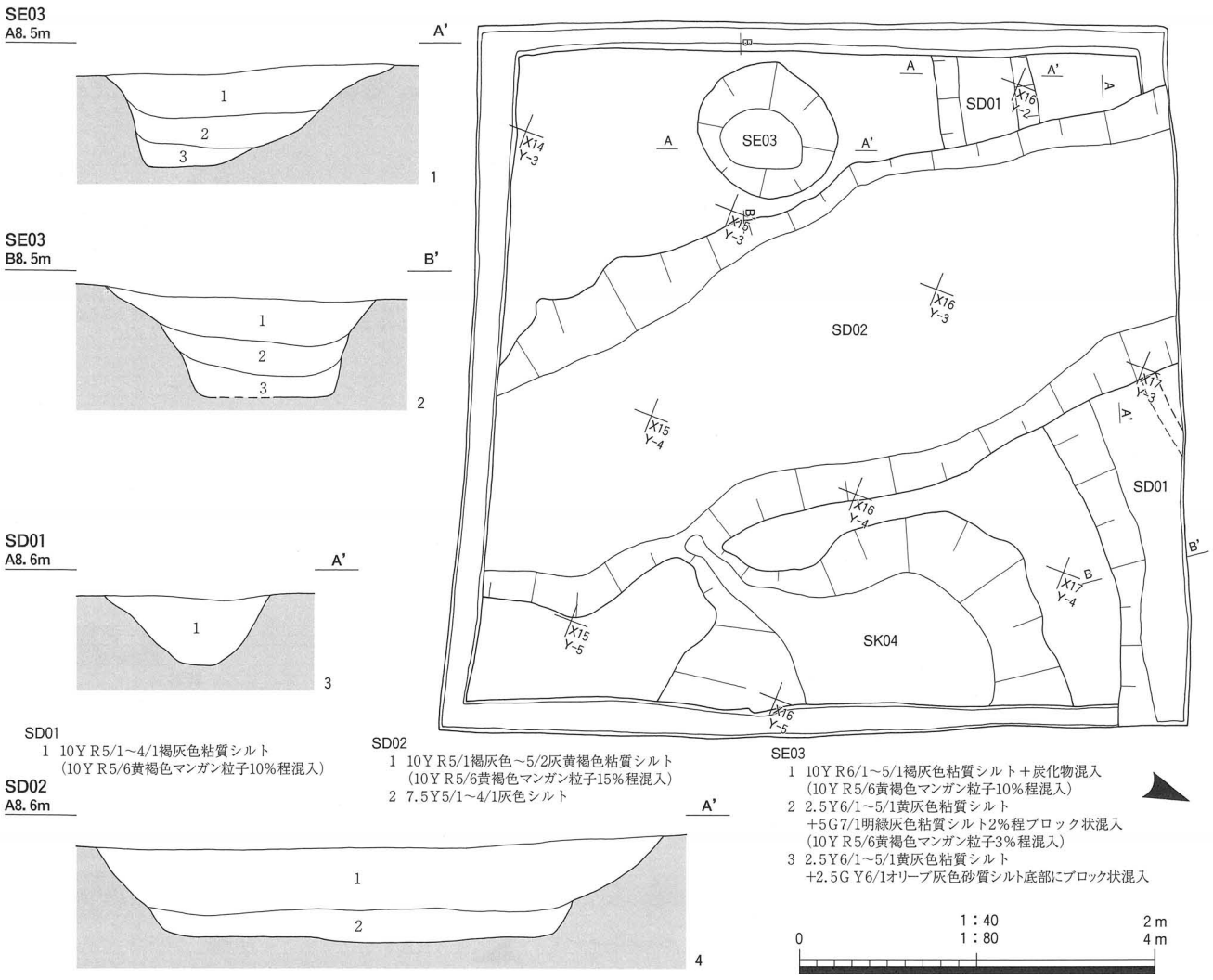
10地区の北側に位置する溝である。北東－南西方向に直線的に伸び、途中SD02と交差するものの全長4.5mを検出。北端は発掘区外へ伸び、南端は11地区のSD07に繋がる流れと考える。覆土は褐灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土。第21図72は口径25.7cmを測る有段高坏の口縁部である。

2号溝（SD02、第16・22図、図版10・16）

10地区の中央部に位置し、北西－南東方向に直線的に伸びる溝である。幅300cm～364cm、全長8.3mを検出。北端は7地区のSD21に、南端は平成16年度調査で発掘されたSD01に繋がる流れと考える。断面は逆台形を呈し、覆土は上層に褐灰色～灰黄褐色粘質シルト、下層に灰色シルトが堆積する。遺物は弥生土器・須恵器・珠洲・青磁が出土している。第22図74は龍泉窯系青磁碗。体部外面に鎬蓮弁文を施し、釉調は明オリーブ灰色である。76は口径45.1cmを測る珠洲甕。

3号井戸（SE03、第16・22図、図版10）

10地区の南西側に位置する素掘井戸である。掘形の平面は楕円形、断面は概ね逆台形を呈する。規模は長軸160cm、短軸142cm、深さ57cmである。覆土は上層に炭化物を含む褐灰色粘質シルト、下層に黄灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土。第22図77は内外面赤彩を施す蓋である。



第16図　遺構実測図　［10地区］（1／80,断面図1／40）

SE03(1・2)　SD01(3)　SD02(4)

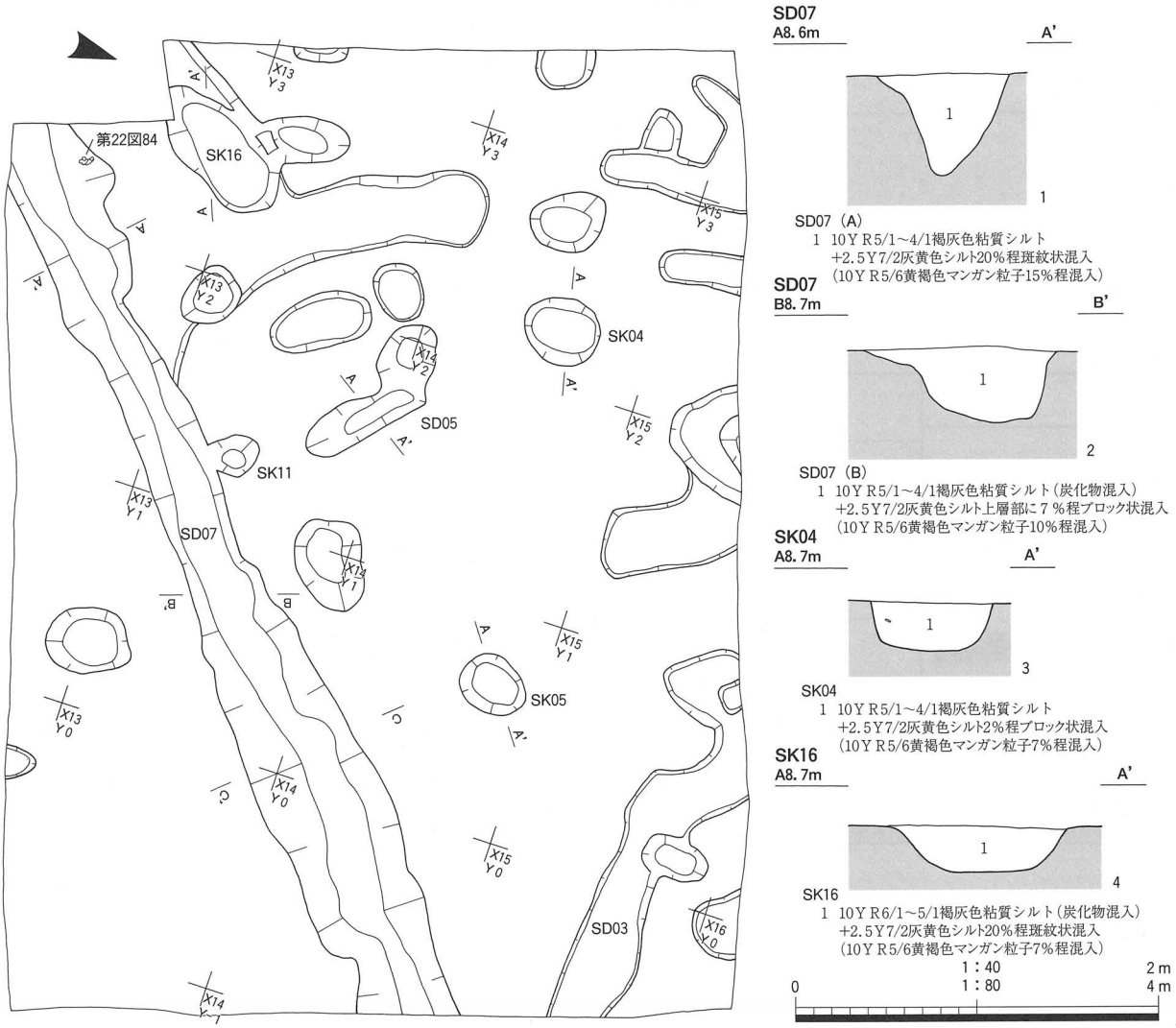
第11節　本発掘調査11地区

7号溝（SD07、第17・22～24図、図版11・16、巻首図版１）

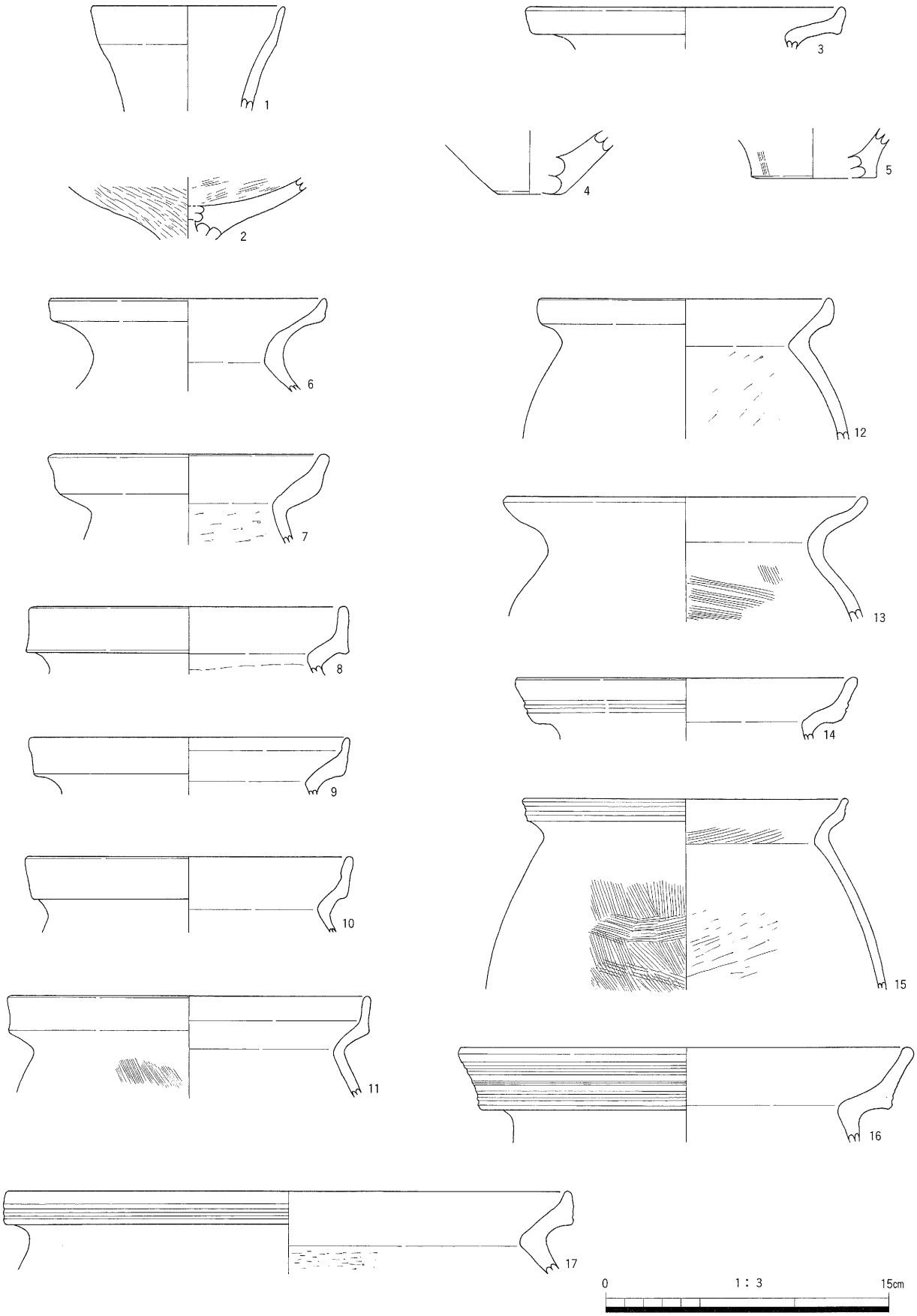
11地区の東側に位置し、北東－南西方向に直線的に伸びる溝である。幅60cm～138cm、全長10.7mを検出。北端は10地区のSD01に、南端は平成16年度調査で発掘されたSD02に繋がる流れと考える。断面は不整形を呈し、覆土は炭化物を含む褐灰色粘質シルトが主体的に堆積し、灰黄色シルトの地山土が一部混入する。遺物は弥生土器・勾玉・緑色凝灰岩製管玉未成品・緑色凝灰岩残核及び剥片・鉄石英剥片・石英剥片・ガラス製小玉が出土している。第22図80・81は弥生時代後期後半の法仏式（下老子Ⅱ式）の擬凹線甕の口縁部である。87は口径16.5cmの鉢。第24図101～107は緑色凝灰岩製管玉の穿孔工程品。101～103は天面からの穿孔が貫通しているもの、104～107は孔に沿って縦方向に割れたものである。108は色調がターコイズブルーのガラス製小玉。109は勾玉完成品。色調が茶褐色で、石材不明である。

16号土坑（SK16、第17・24図、図版16）

11地区の南西端に位置する楕円形土坑である。規模は長軸170cm、短軸74cm、深さ26cmで、断面は逆台形を呈する。覆土は炭化物を含む褐灰色粘質シルトと灰黄色シルト地山土が斑紋状に堆積する。遺物は弥生土器・勾玉・緑色凝灰岩残核が出土している。第24図110はひすい製の勾玉完成品。色調は白濁色で若干緑色がみられる。穿孔方法は片側穿孔である。

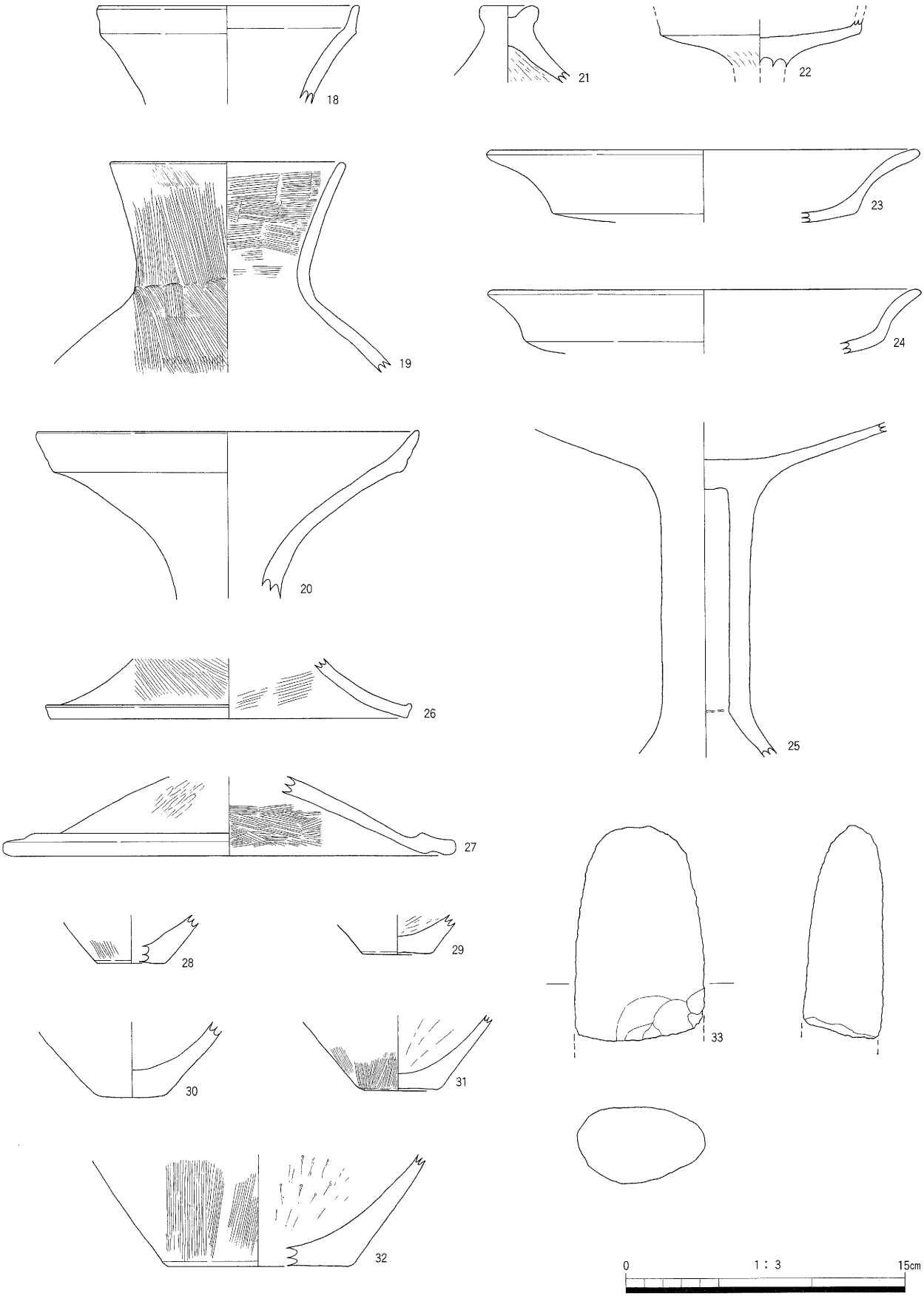


第17図　遺構実測図　［11地区］（1／80,断面図1／40）
SD07(1･2)　SK04(3)　SK16(4)



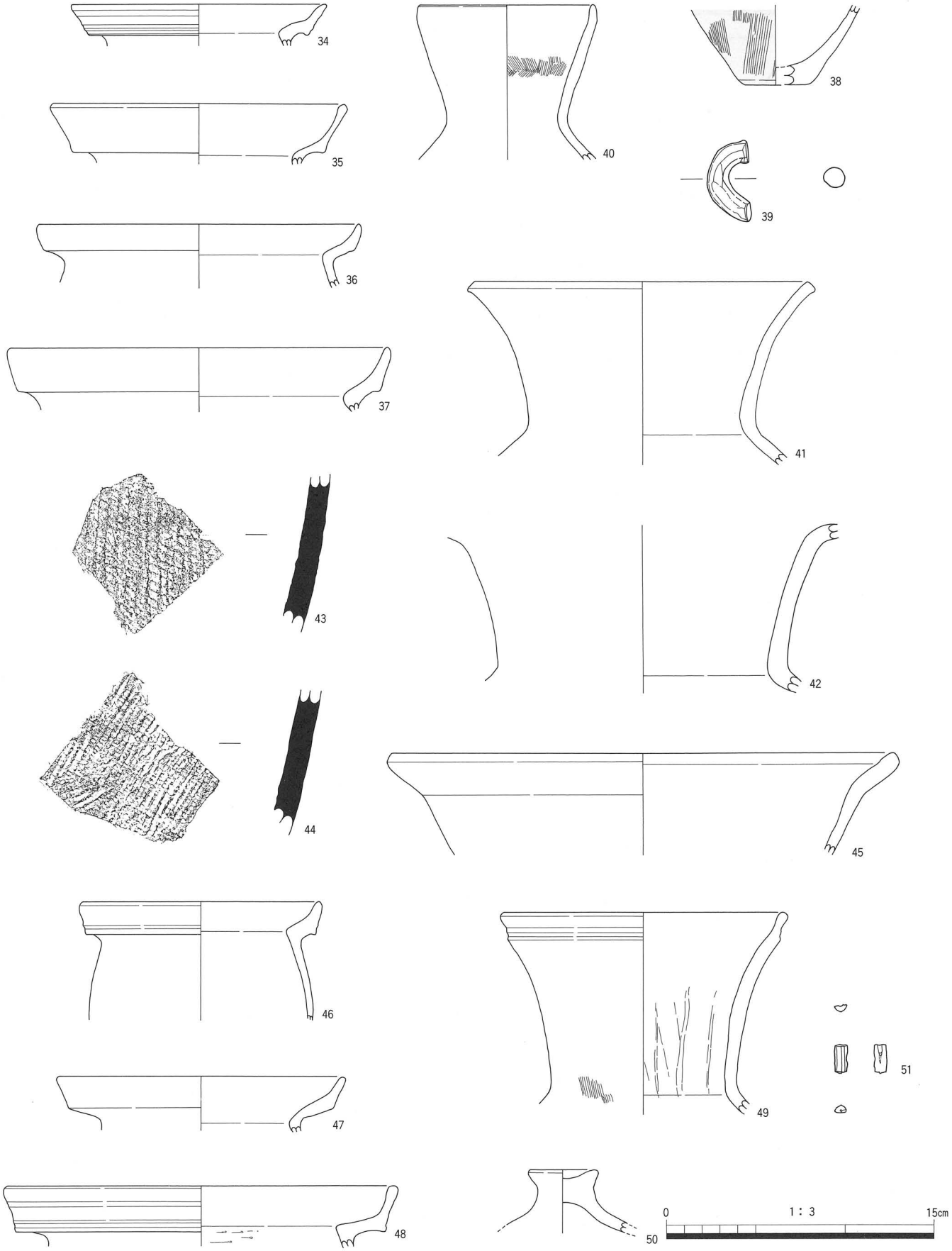
第18図　遺物実測図　［1～4地区］（1／3）

1地区：包含層(1)　2地区：SK03(2)　3地区：SP26(3)　SD01(4)　SK01(5)　4地区：SD15(6～17)



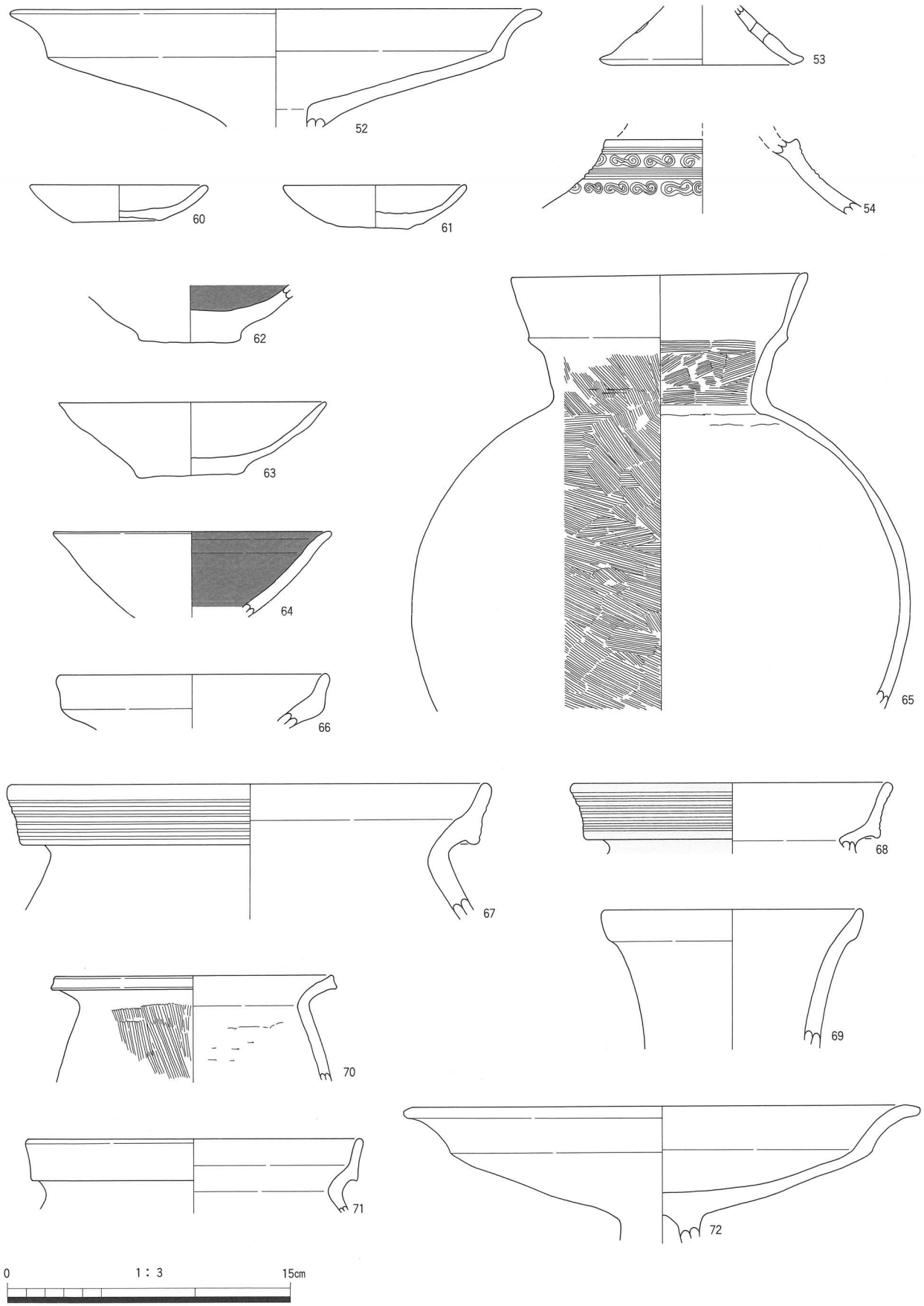
第19図　遺物実測図　［４地区］（1／3）

4地区：SD15（18～33）



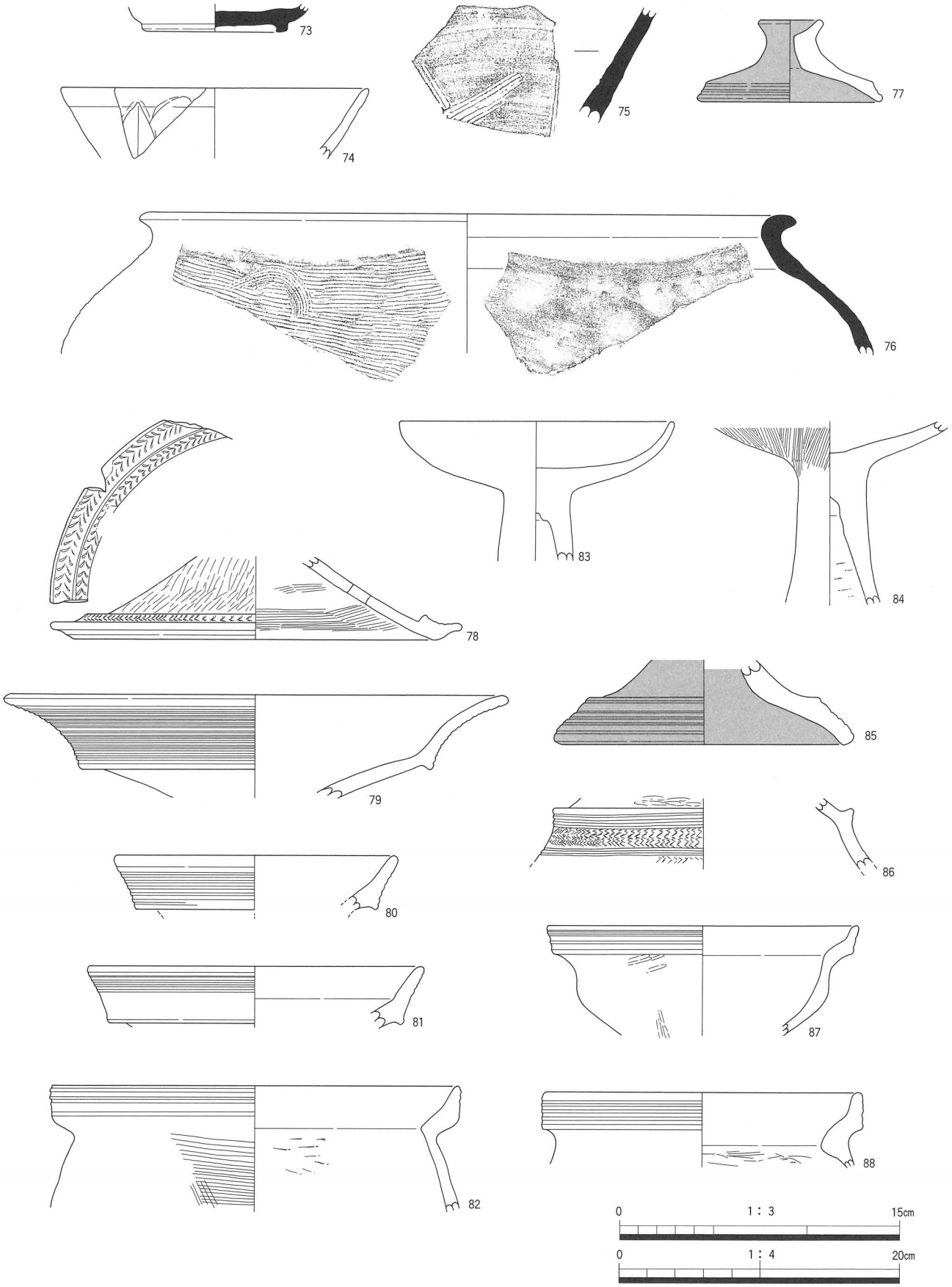
第20図　遺物実測図　［5・7地区］（1／3，51：1／1）

5地区：SK05（34～42）　SD17（43～45）　7地区：SD01（46～51）



第21図　遺物実測図　［7～10地区］（1／3）

7地区：SD01（52）　SX03（53・54）　8地区：包含層（60～65）　9地区：SD01（66）　SK01（67）　包含層（68・69）　10地区：SD01（70～72）



第22図　遺物実測図　［10・11地区］（1／3，76：1／4）

10地区：SD02（73～76）　SE03（77）　11地区：SD03（78・79）　SD07（80～87）　SK19（88）

第23図　遺物実測図　［11地区］（1／2，96～98：1／1）

11地区：SD07（89～100）

第24図　遺物実測図　［11地区］（1／1，111：1／2）

11地区：SD07(101～109)　SK16(110・111)　SK11(112)

第4章　考　　察

本江畑田Ⅰ遺跡での玉作りについて

出土状況

石製玉作関連遺物は主に遺構埋土の土壌洗浄により見つかった。発掘調査時には11地区の７号溝が最も多く、７地区の１号溝、11地区の３号溝・５号土坑・16号土坑からも若干量出土している。前回道路敷の発掘調査時には11地区の７号溝に面していた可能性のある１号竪穴建物内部の床面直上からも集中して出土している。このことから建物廃絶後の流れ込みと考えるよりも、建物を中心施設としながら付近の土坑でも玉作りが行われ、関連した溝に流れこんだ痕跡を示すものであると考えたい。

次に各地区の出土状況を示す。今回の発掘調査では７・11地区のみで石製玉作関連遺物が出土。７地区では１号溝から緑色凝灰岩の管玉未成品・剥片、２号溝から鉄石英剥片が出土した。11地区では３号溝から緑色凝灰岩剥片、７号溝から緑色凝灰岩・鉄石英・石英・ガラス等を素材とする玉の完成品・未成品・剥片、５号土坑から緑色凝灰岩剥片、16号土坑から緑色凝灰岩剥片・ひすい勾玉完成品が出土した。石製玉作関連遺物が出土した遺構は殆ど緑色凝灰岩が出土しており、これに伴って他の石材も出土している。緑色凝灰岩製管玉作りを中心に、他の石材の玉作りも若干量確認される。

特　徴

本江畑田Ⅰ遺跡での玉作りの特徴としては、以下のことがあげられる。

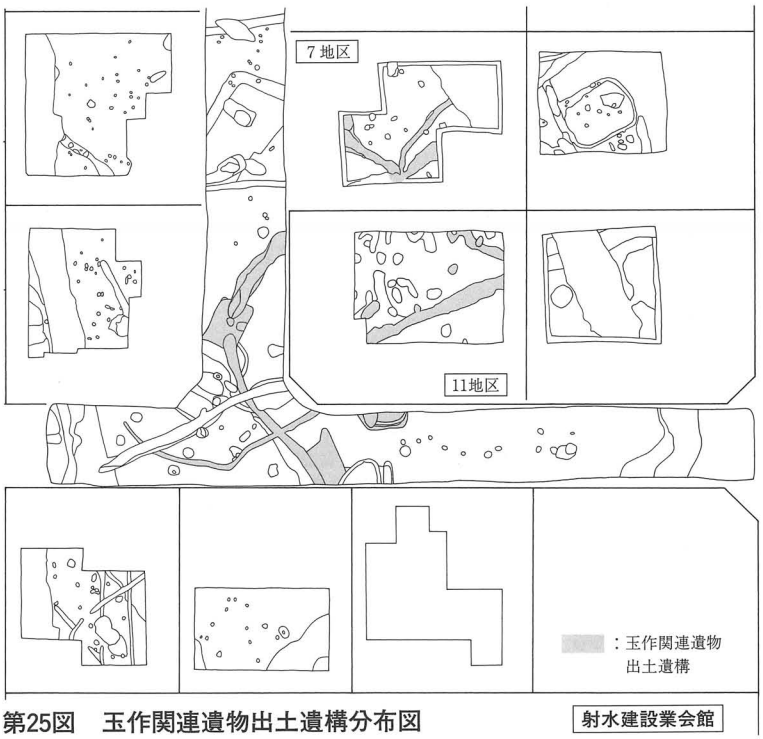
①石材の殆どが緑色凝灰岩ではあるが、他に鉄石英・石英・ひすい等、多種の石材を採集・加工し管玉・勾玉を生産している。その他、ガラス小玉も出土している。**(緑色凝灰岩　337g・鉄石英　28g)**

②製作方法は、施溝分割を行わずに荒割りし、側面に打撃を加えて形割り品を作り出した後、研磨・穿孔・仕上げという北陸の弥生後期後半以降の技法として知られているものと変わらない。富山県内においては、下老子笹川遺跡（高岡市）や江上Ａ遺跡（上市町）が報告されている。

③石製玉作関連遺物は建物内部以外の溝や土坑からも出土しているため、建物外でも作業が行われていたものと考える。また、出土地点が広範囲に及ばず、未成品の出土が少量であることから、一定箇所での廃棄行為を伺わせる。

④石製玉作関連遺物が出土する遺構埋土からイネ炭化果実（炭化米）が見つかっており、農業を生業とする集落において、必要に応じて玉作りが行われていたものと考える。

⑤玉の消費地の一つに考えられる墓の調査例は富山県内に少なく、大量副葬する例は発掘されていないが、11地区南東側（現：射水建設業会館敷地内）に墳丘が存在していたとされることから、地域で消費するための生産である可能性が高い。



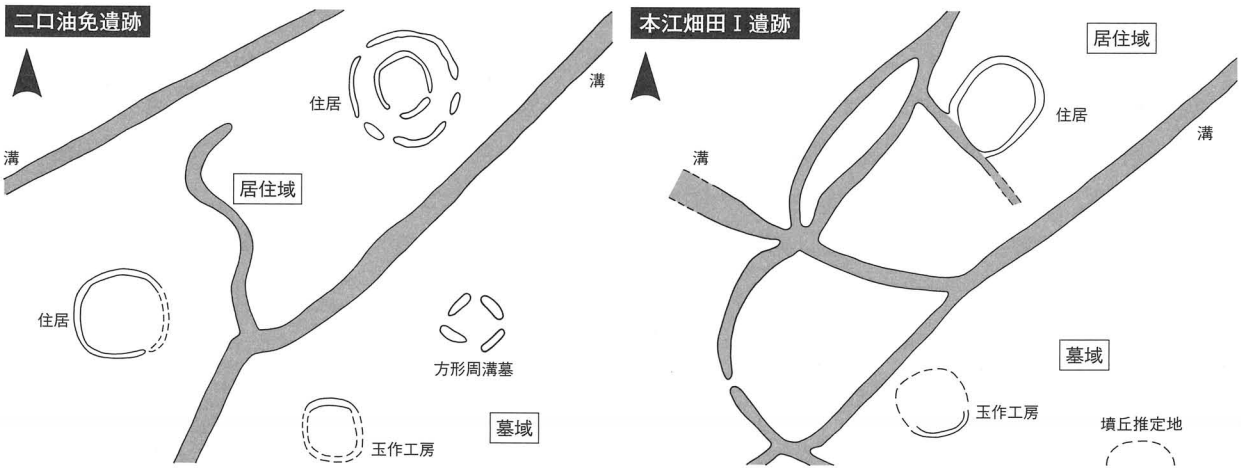
第25図　玉作関連遺物出土遺構分布図　　射水建設業会館

まとめ

本江畑田Ⅰ遺跡の玉作りは、緑色凝灰岩を中心としながら鉄石英・ひすい等を使う生産体制、また形割り品の作出しに施溝分割を行わない製作工程と、弥生時代後期後半から終末期（法仏式期～月影式期）の玉作遺跡としては北陸地方でこれまで知られてきたものと使用石材・製作工程に限れば、ほぼ同様であると考える。ただし、工具類の未出土、工房跡の建物全体像、調査面積が限定されているゆえに不明な点が多いのも確かである。

ここで本江畑田Ⅰ遺跡の北東約800mにある二口油免遺跡(第２～４次)の調査成果と、当遺跡での類似点をもとに仮説を考えてみたい。この調査区も弥生時代後期後半から終末期（法仏式期～月影式期）の土器や管玉未成品・完成品を含む石製玉作関連遺物が出土し、竪穴式住居跡・玉作工房跡・方形周溝墓等が調査されている。他には、集落の形成区域にも類似点が見られる。(第26図)それは、並行する２条の溝の区域内に玉作りを行わない住居を形成し、溝を隔てた南側に玉作工房と墓（方形周溝墓・墳丘）を形成している点である。従って比較対象が隣接する２遺跡ではあるが、この時期の集落では居住域・墓域が形成され、玉作工房は墓域内に形成されていたことになる。墓域内の形成となれば居住を目的としない建物であり、玉作り要請時のみの工房と考えられる。イネ炭化果実(炭化米)の出土からも、農業を生業とする集落であり、玉作り専業集団ではないものと言える。弥生時代後期後半から終末期の集落においての玉作りは、規模はともかく特別な行為ではなかったものと考える。

富山県内には、石製玉作関連遺物が出土している弥生時代の遺跡が30箇所余確認されているが、その約半分は射水市内ということもあり、今後の調査でより詳しい成果が得られるよう期待したい。



第26図　集落構成模式図

〈引用参考文献〉

上野　章他　1990　『布目沢北遺跡発掘調査概要』　富山県　大門町教育委員会
上野　敬他　1995　『二口かみあれた遺跡』　石川県　志雄町教育委員会
尾野寺克実他　2005　『本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告(2)』　富山県　大門町教育委員会
尾野寺克実他　2005　『二口油免遺跡発掘調査報告(4)』　富山県　大門町教育委員会
中井　英策　1998　『二口油免遺跡第Ⅱ次発掘調査概報』　富山県　大門町教育委員会
田嶋　明人　1986　『漆町遺跡Ⅰ』　石川県立埋蔵文化財センター
中野由紀子　1999　「富山県の管玉製作について」『紀要富山考古学研究』第２号　財団法人富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所
藤田富士夫　1989　『玉』　ニューサイエンス社
谷内尾晋司他　2003　「玉をめぐる交流」『石川県埋蔵文化財情報』第10号　財団法人石川県埋蔵文化財センター
山口　辰一　1995　『石塚遺跡調査概報Ⅲ』　富山県　高岡市教育委員会
出越茂和他　2002　『大友西遺跡Ⅱ』　石川県　金沢市埋蔵文化財センター
尾崎　高宏　2005　『下馬場遺跡・細田遺跡』　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
冨山正明他　2004　『林・藤島遺跡　北野上地区』　福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
宮田進一他　2006　『下老子笹川遺跡発掘調査報告』　財団法人富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所
山本正敏他　1992　『大門町企業団地内遺跡発掘調査報告(2)』　富山県埋蔵文化財センター・富山県　大門町教育委員会

第２表　出土遺物観察表

図　版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備　考	残存量
第18図	1	包含層1地区	弥生土器	壷	10.0			弥生終末期	口1/4
	2	SK03　2地区	弥生土器	高坏					破片
	3	SP26　3地区	弥生土器	甕	16.5			弥生後期後半	口1/8
	4	SD01　3地区	弥生土器	甕(壷)			3.9		底1/4
	5	SK01　3地区	弥生土器	甕(壷)			6.6		底1/5
	6	SD15　4地区	弥生土器	甕	14.3			弥生後期後半	口1/4
	7	SD15　4地区	弥生土器	甕	14.2			弥生後期後半	口1/4
	8	SD15　4地区	弥生土器	甕	16.2			弥生終末期	口3/4
	9	SD15　4地区	弥生土器	甕	16.6			弥生終末期	口1/8
	10	SD15　4地区	弥生土器	甕	16.9			弥生終末期	口1/4
	11	SD15　4地区	弥生土器	甕	18.8			弥生終末期	口1/4
	12	SD15　4地区	弥生土器	甕	15.1			弥生後期後半	口1/4
	13	SD15　4地区	弥生土器	甕	18.6			弥生後期後半	口1/8
	14	SD15　4地区	弥生土器	甕	17.8			弥生終末期　擬凹線文	口1/6
	15	SD15　4地区	弥生土器	甕	16.8			弥生終末期　擬凹線文	口1/4
	16	SD15　4地区	弥生土器	甕	23.6			弥生終末期　擬凹線文	口1/8
	17	SD15　4地区	弥生土器	甕	29.4			弥生終末期　擬凹線文	口1/12
第19図	18	SD15　4地区	弥生土器	壷	13.8			弥生後期後半	口1/8
	19	SD15　4地区	弥生土器	壷	12.2			弥生後期後半	口完存
	20	SD15　4地区	弥生土器	器台	20.2			弥生後期後半　擬凹線文	口1/3
	21	SD15　4地区	弥生土器	蓋				弥生終末期	
	22	SD15　4地区	弥生土器	高坏					坏3/4
	23	SD15　4地区	弥生土器	高坏	22.6			弥生後期後半	口1/8
	24	SD15　4地区	弥生土器	高坏	22.4			弥生後期後半	口1/5
	25	SD15　4地区	弥生土器	高坏				弥生後期後半	
	26	SD15　4地区	弥生土器	高坏			脚径19.0	弥生後期後半	脚1/8
	27	SD15　4地区	弥生土器	高坏			脚径23.0	弥生後期後半	脚1/8
	28	SD15　4地区	弥生土器	甕(壷)			4.0		底1/4
	29	SD15　4地区	弥生土器	甕(壷)			4.0		底完存
	30	SD15　4地区	弥生土器	甕(壷)			3.7		底完存
	31	SD15　4地区	弥生土器	甕(壷)			4.3		底完存
	32	SD15　4地区	弥生土器	甕(壷)			10.4		底1/8
	33	SD15　4地区	石製品	石斧				磨製石斧　未研磨品	
第20図	34	SK05　5地区	弥生土器	甕	14.0			弥生後期後半　擬凹線文	口1/6
	35	SK05　5地区	弥生土器	甕	16.1			弥生終末期	口1/4
	36	SK05　5地区	弥生土器	甕	17.7			弥生終末期	口1/4
	37	SK05　5地区	弥生土器	甕	20.9			弥生終末期	口1/12
	38	SK05　5地区	弥生土器	甕(壷)			4.3	外面煤付着	底1/2
	39	SK05　5地区	弥生土器					把手	破片
	40	SK05　5地区	弥生土器	壷	9.6			弥生後期後半	口1/4
	41	SK05　5地区	弥生土器	壷	18.4			弥生後期後半	口2/3
	42	SK05　5地区	弥生土器	壷				弥生後期後半	
	43	SD17　5地区	須恵器	甕					破片
	44	SD17　5地区	須恵器	甕					破片
	45	SD17　5地区	土師器	鍋	27.9			9C	口1/12
	46	SD01　7地区	弥生土器	甕	13.1			弥生後期後半　擬凹線文	口1/4
	47	SD01　7地区	弥生土器	甕	15.7			弥生後期後半	口1/8
	48	SD01　7地区	弥生土器	甕	21.6			弥生終末期　擬凹線文	口1/16
	49	SD01　7地区	弥生土器	壷	15.5			弥生後期後半　擬凹線文	口1/3
	50	SD01　7地区	弥生土器	蓋				弥生終末期	
	51	SD01　7地区	石製玉作	管玉				緑色凝灰岩　穿孔工程	1g
第21図	52	SD01　7地区	弥生土器	高坏	26.5			弥生後期後半	坏1/4
	53	SX03　7地区	弥生土器	高坏			脚径9.4		脚1/4
	54	SX03　7地区	弥生土器	高坏				弥生後期後半　S字形スタンプ文	破片
第13図	55	SD02　7地区	弥生土器	高坏					
	56	SD02　7地区	弥生土器	蓋	6.9			弥生終末期	口3/4

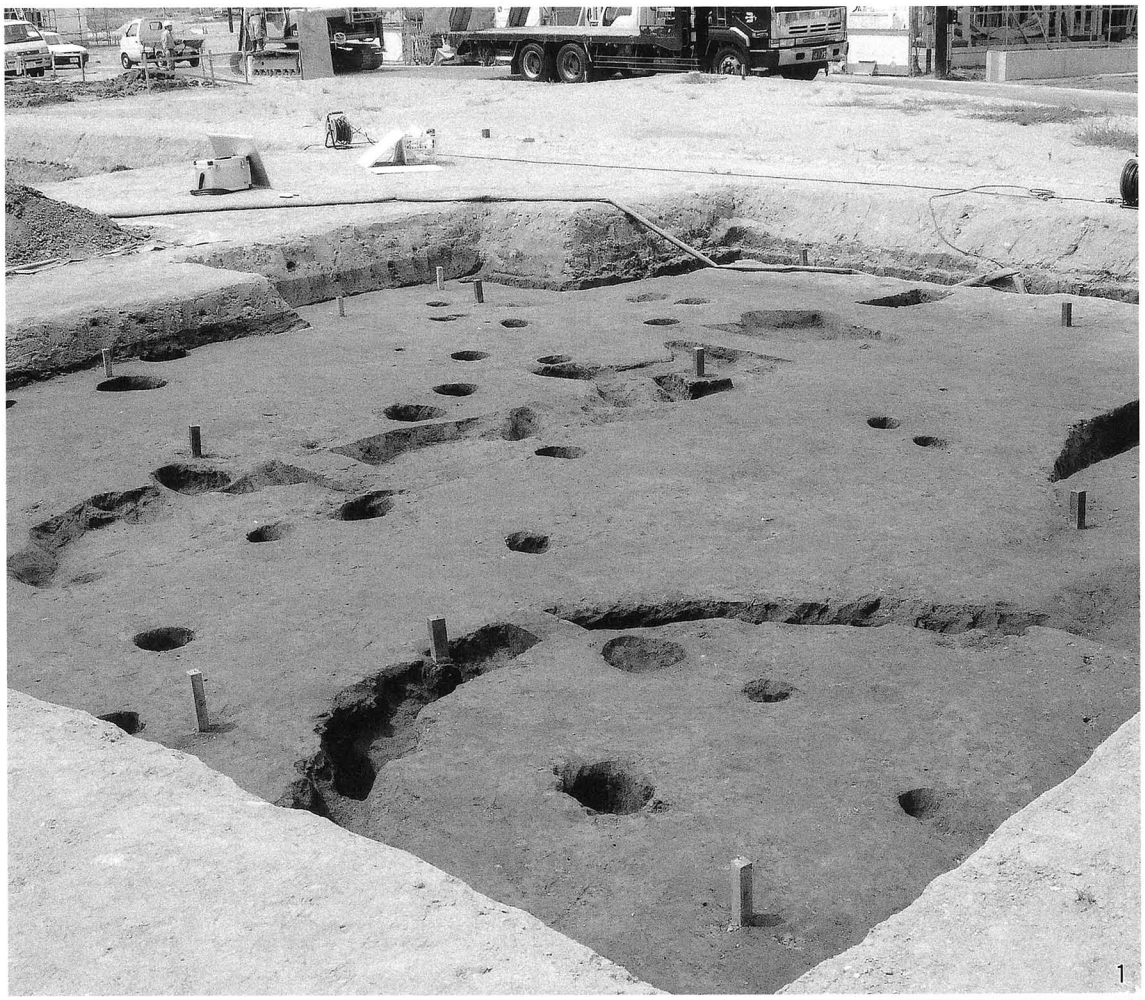
口：口縁部　　底：底部　　坏：坏部　　脚：脚部

第3表　出土遺物観察表

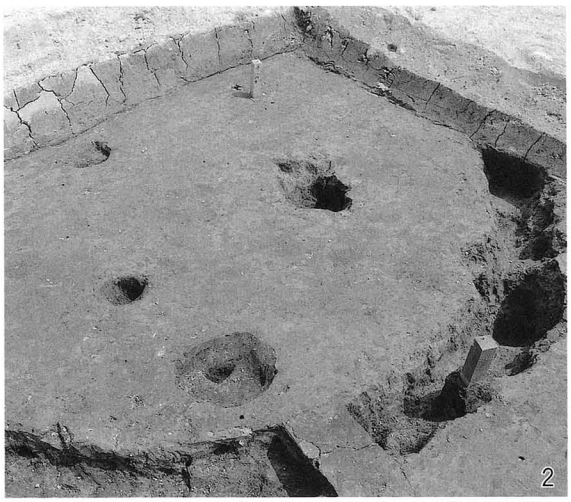
図　版	No.	遺構・出土区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備　考	残存量
第13図	57	SD02　7地区	弥生土器	高坏				弥生後期後半　刺突文	
	58	SD02　7地区	弥生土器	甕(壷)			4.7		底　完存
	59	SD02　7地区	弥生土器	高坏	27.8			弥生後期後半	口　1/12
第21図	60	包含層　8地区	土師器	皿	9.3	2.0	4.8	11C後半～12C初頭	完形
	61	包含層　8地区	土師器	皿	9.5	2.2	3.5	11C後半～12C初頭	口1/6　底完存
	62	包含層　8地区	土師器	埦			5.3	〃　内面黒色	底　完存
	63	包含層　8地区	土師器	埦	13.9	3.9	5.6	〃	口　3/4　底完存
	64	包含層　8地区	土師器	埦	14.4			〃　内面黒色	口　1/4
	65	包含層　8地区	弥生土器	壷	15.5			弥生後期後半	口　完存
	66	SD01　9地区	弥生土器	甕	13.8				破片
	67	SK01　9地区	弥生土器	甕	25.0			弥生終末期　擬凹線文	口　1/8
	68	包含層　9地区	弥生土器	甕	16.4			擬凹線文　外面煤付着	口　1/8
	69	包含層　9地区	弥生土器	壷	13.4			弥生後期後半	口　1/4
	70	SD01　10地区	弥生土器	甕	14.4				口　1/8
	71	SD01　10地区	弥生土器	甕	17.3			弥生終末期	口　1/8
	72	SD01　10地区	弥生土器	高坏	25.7			弥生後期後半	坏　2/3
第22図	73	SD02　10地区	須恵器	坏B			7.8	内面ヘラ記号	
	74	SD02　10地区	青磁	碗	16.2			龍泉窯系　鎬蓮弁文	口　1/10
	75	SD02　10地区	珠洲	片口鉢				卸目6条	破片
	76	SD02　10地区	珠洲	甕	45.1				口　1/8
	77	SE03　10地区	弥生土器	蓋	9.4	4.5		弥生後期後半　内外面赤彩	
	78	SD03　11地区	弥生土器	器台			脚径22.0	弥生後期後半　刺突文	脚　1/4
	79	SD03　11地区	弥生土器	高坏	26.3			弥生後期後半　擬凹線文	坏　1/8
	80	SD07　11地区	弥生土器	甕	14.7			弥生後期後半　擬凹線文	口　1/8
	81	SD07　11地区	弥生土器	甕	17.8			弥生後期後半　擬凹線文	口　1/12
	82	SD07　11地区	弥生土器	甕	21.7			弥生終末期　擬凹線文	口　1/4
	83	SD07　11地区	弥生土器	高坏	14.6			弥生後期後半	
	84	SD07　11地区	弥生土器	高坏					
	85	SD07　11地区	弥生土器	器台			脚径15.0	弥生後期後半　内外面赤彩	脚　1/8
	86	SD07　11地区	弥生土器	高坏				弥生後期後半　刺突文	破片
	87	SD07　11地区	弥生土器	鉢	16.5			弥生後期後半　擬凹線文	口　1/12
	88	SK19　11地区	弥生土器	甕	16.6			弥生終末期　擬凹線文	口　1/4
第23図	89	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　残核	50g
	90	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　残核	30g
	91	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　荒割工程	9g
	92	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　荒割工程	10g
	93	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　荒割工程	5g
	94	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　荒割工程	10g
	95	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　荒割工程	4g
	96	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　形割工程	2g
	97	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　形割工程	1g以下
	98	SD07　11地区	石製玉作					鉄石英　剥片	1g以下
	99	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　剥片	2g
	100	SD07　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　剥片	2g
第24図	101	SD07　11地区	石製玉作	管玉				緑色凝灰岩　穿孔工程	2g
	102	SD07　11地区	石製玉作	管玉				緑色凝灰岩　穿孔工程	1g
	103	SD07　11地区	石製玉作	管玉				緑色凝灰岩　穿孔工程	1g
	104	SD07　11地区	石製玉作	管玉				緑色凝灰岩　穿孔工程	1g以下
	105	SD07　11地区	石製玉作	管玉				緑色凝灰岩　穿孔工程	1g以下
	106	SD07　11地区	石製玉作	管玉				緑色凝灰岩　穿孔工程	1g
	107	SD07　11地区	石製玉作	管玉				緑色凝灰岩　穿孔工程	1g以下
	108	SD07　11地区	ガラス製玉作	小玉				ターコイズブルー　気泡含	1g以下
	109	SD07　11地区	石製玉作	勾玉				茶褐色	2g
	110	SK16　11地区	石製玉作	勾玉				ひすい	1g
	111	SK16　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　荒割工程	17g
	112	SK11　11地区	石製玉作					緑色凝灰岩　形割工程	1g

口：口縁部　　底：底部　　坏：坏部　　脚：脚部

1．遺構全景(北から)



2．溝 SD01(南から)



3．柱穴状土坑 SP03
(西から)

4．柱穴状土坑 SP09
(東から)

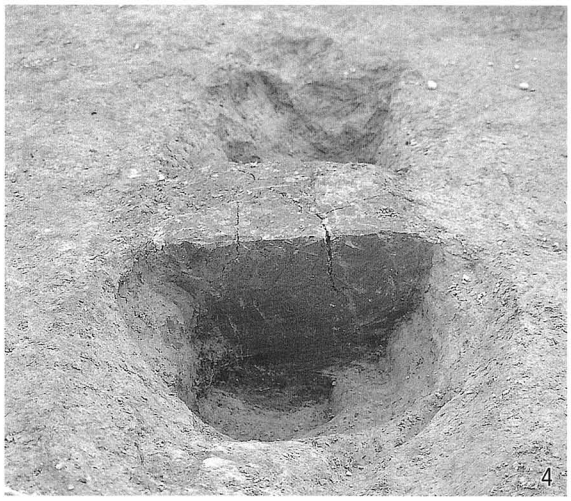
5．柱穴状土坑 SP11
(東から)

図版２　〔２地区〕

1．遺構全景（南から）

2．溝 SD01B–B’
（西から）

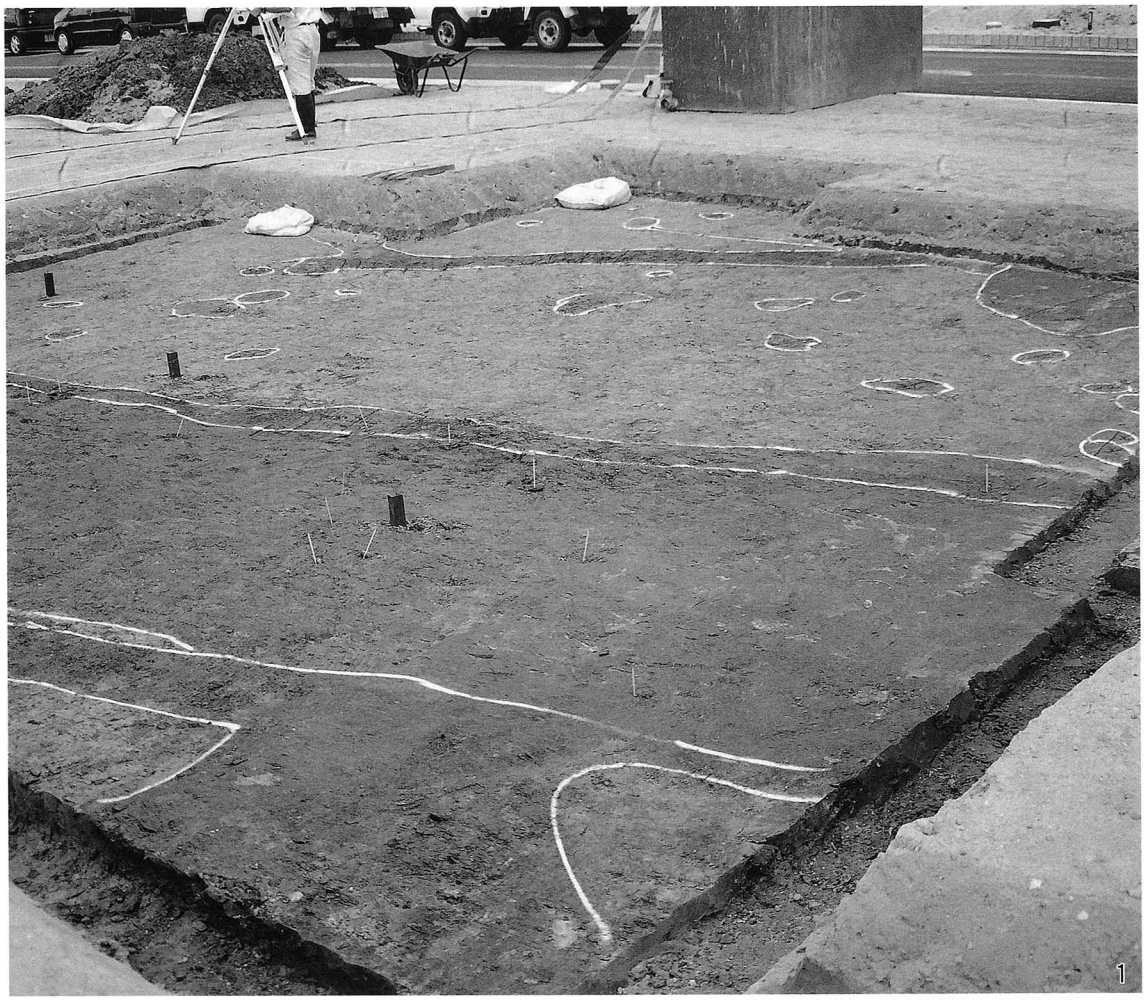
3．柱穴状土坑 SP13
（南から）



4．土坑 SK02
（南西から）

5．土坑 SK03
（西から）

1．遺構検出（南から）

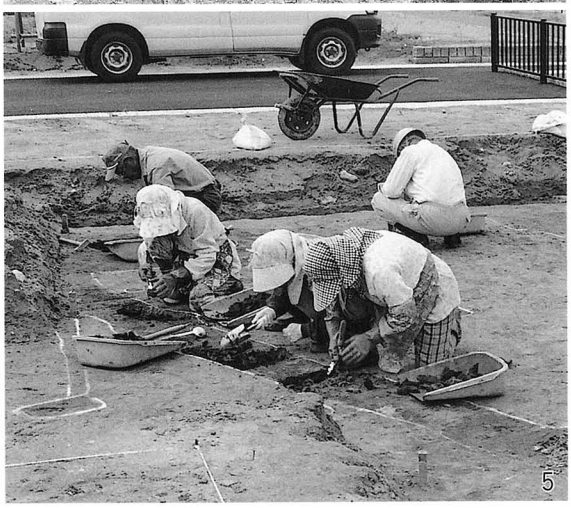


2．溝SD03（南東から）

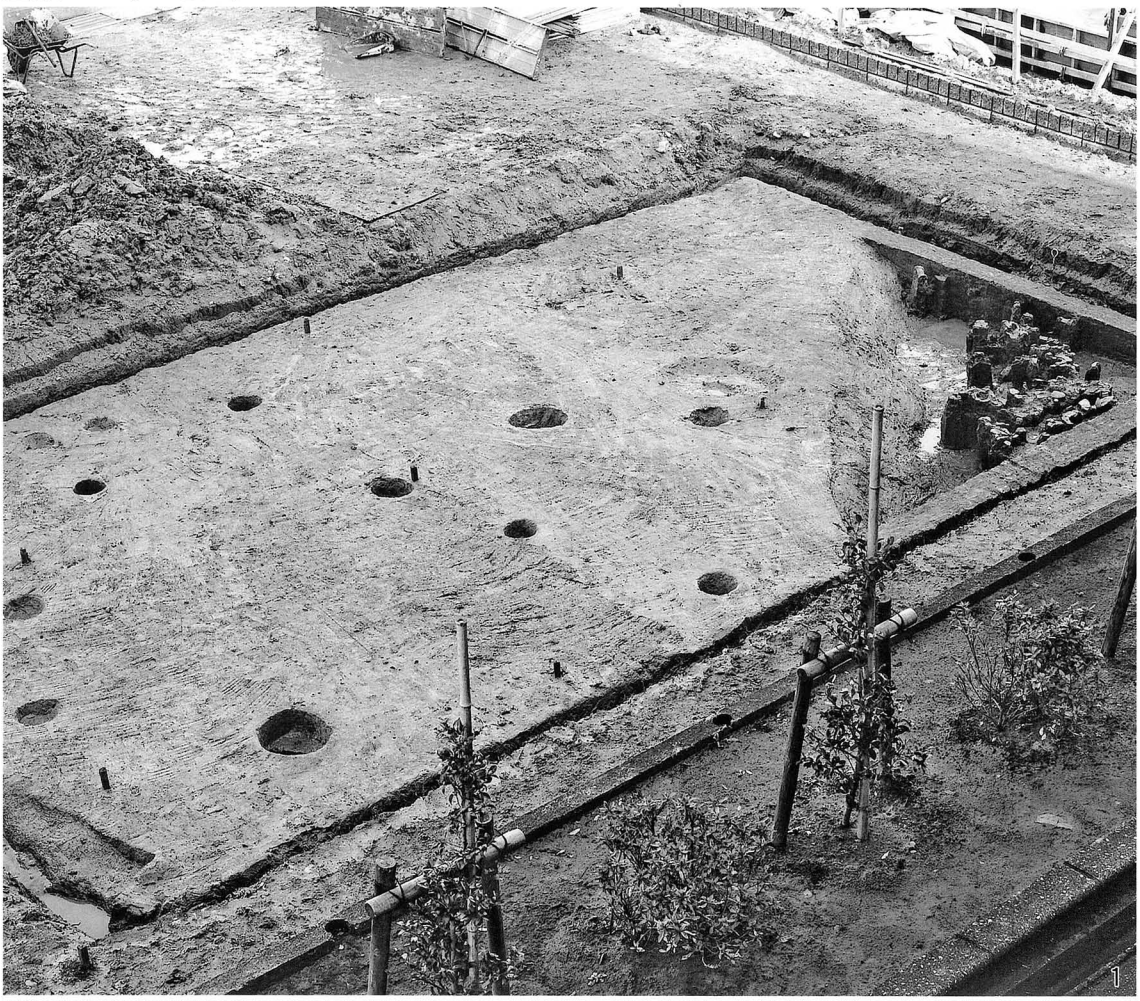
3．溝SD04（北西から）

4．土坑 SK01
（南から）

5．作業風景



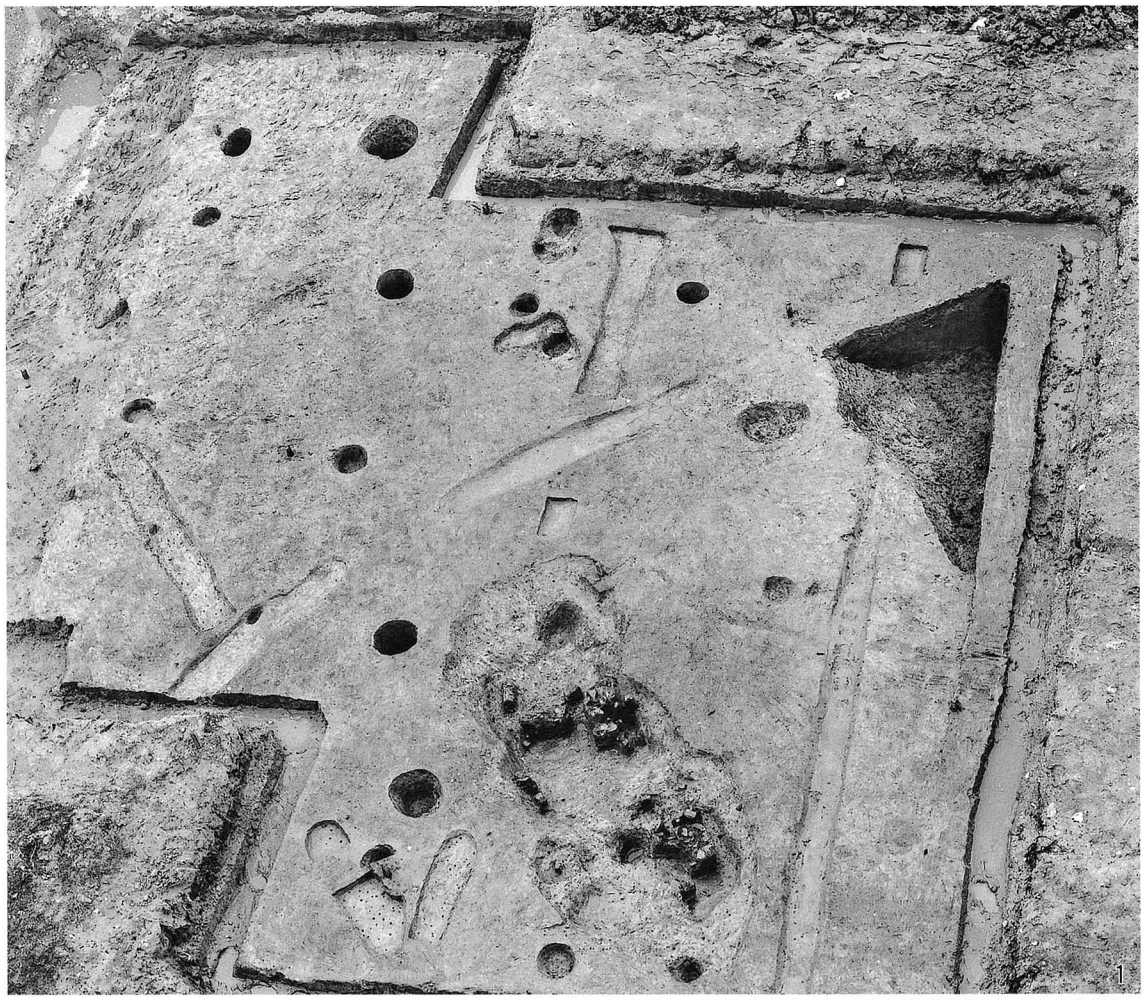
図版４　〔４地区〕



１．遺構全景（南西から）

２．溝 SD15（南から）
遺物出土状況

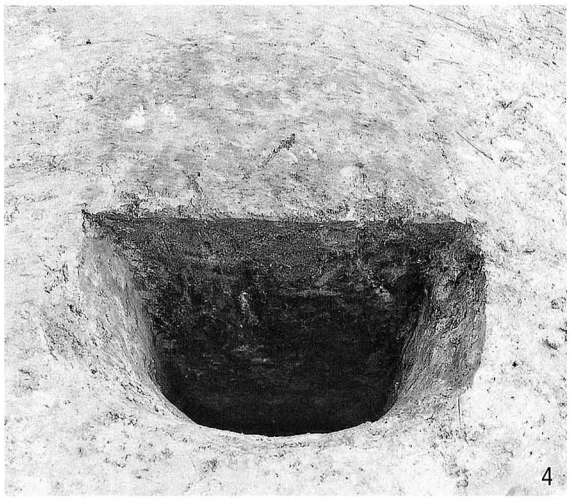
1．遺構全景(南から)



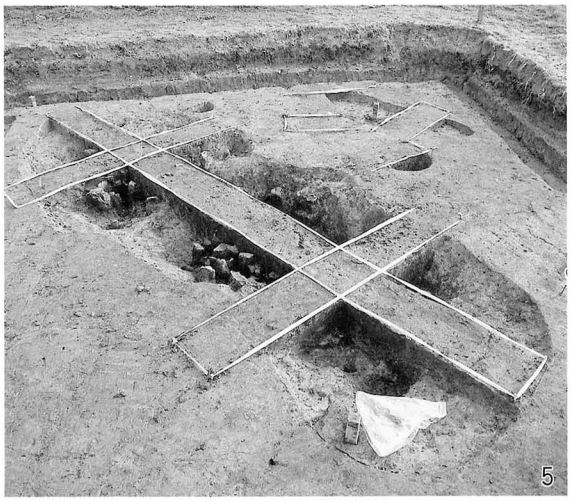
2．溝 SD02(北から)

3．溝 SD03B–B'
(東から)

4．柱穴状土坑 SP06
(西から)

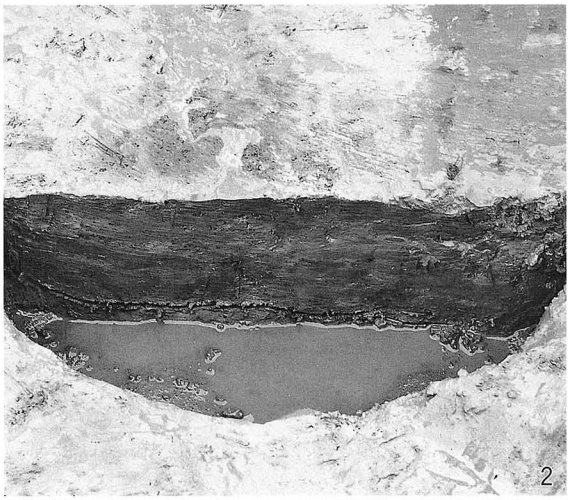


5．土坑 SK05(北から)



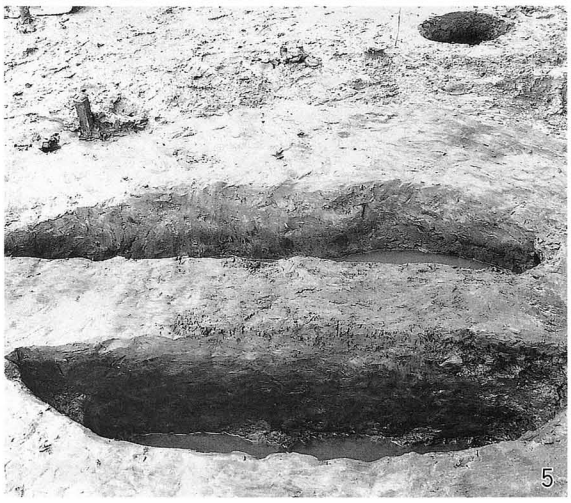
図版６　〔６地区〕

1．遺構全景（東から）



2．柱穴状土坑 SP06（南から）

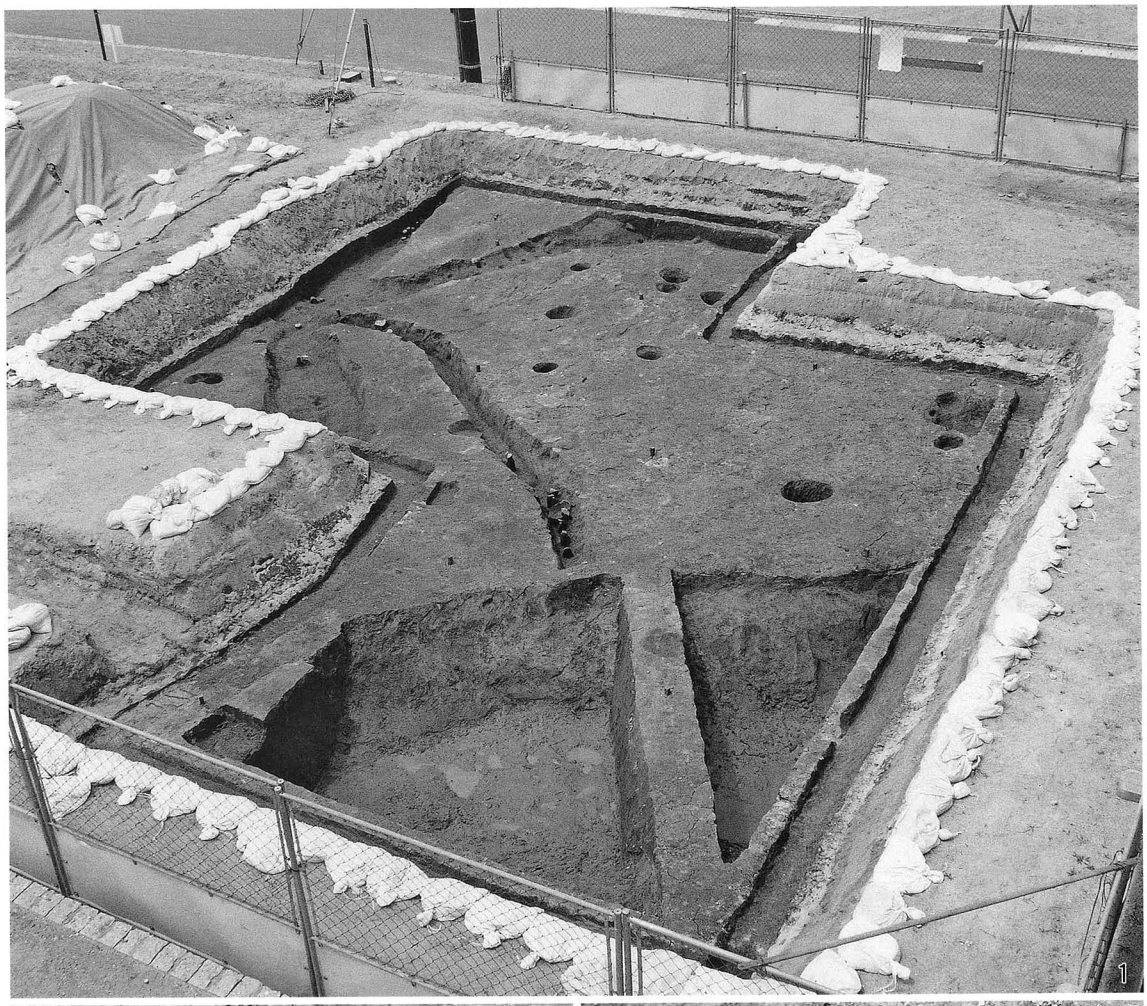
3．柱穴状土坑 SP15（北から）



4．柱穴状土坑 SP24（南東から）

5．土坑 SK01（北から）

１．遺構全景（東から）



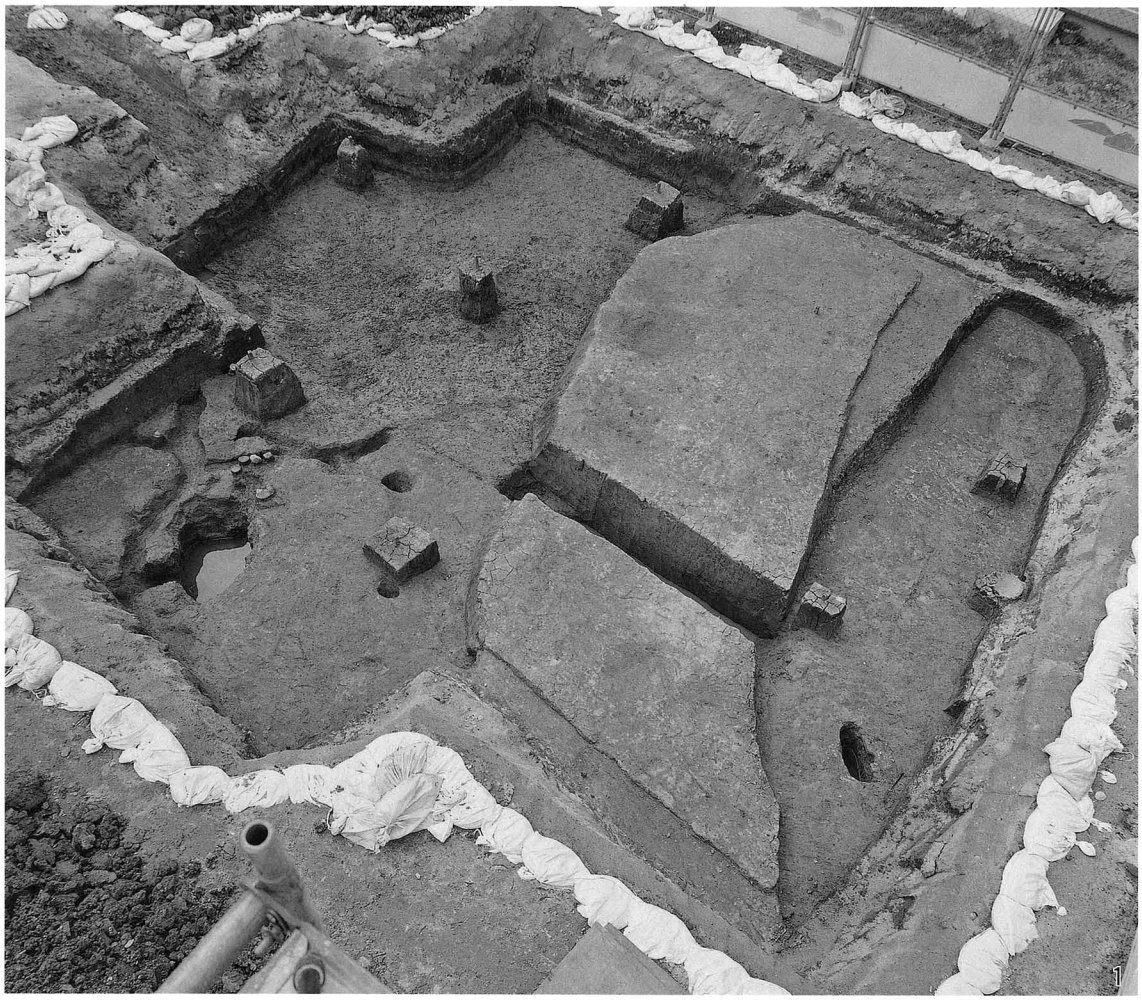
２．溝 SD02C−C’
（南から）

３．溝 SD02（東から）
遺物出土状況

４．柱穴状土坑 SP14
（南から）

５．土坑 SK17
（南東から）

図版８　〔８地区〕



1．遺構全景（東から）

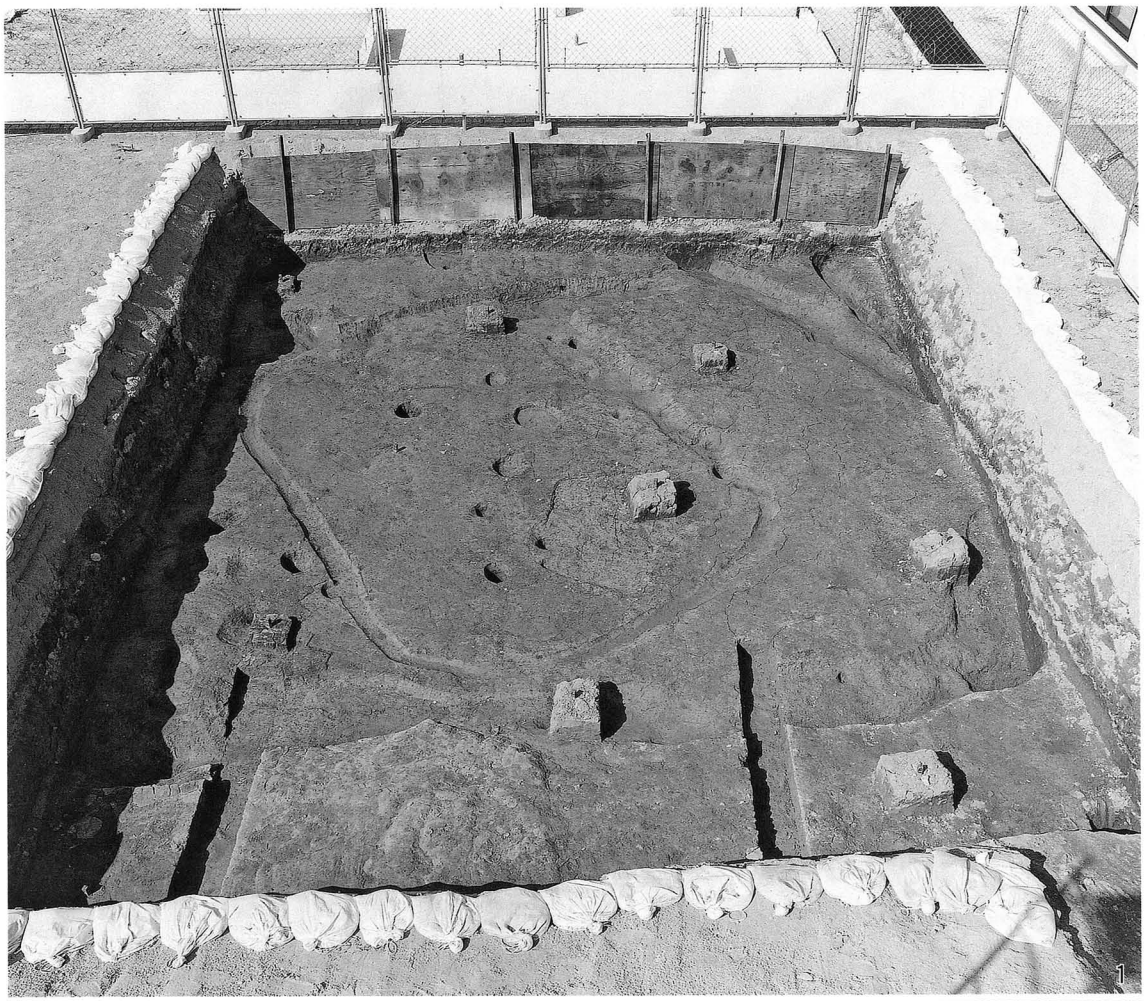
2．溝 SD03B–B’
（南から）

3．土坑 SK05
（南西から）

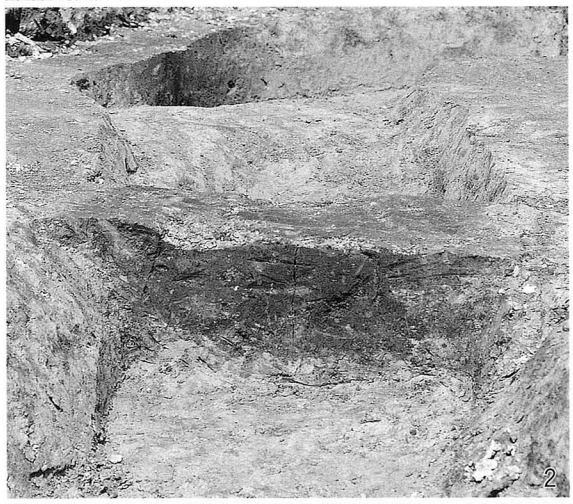
4．包含層（西から）
遺物出土状況

5．井戸 SE04周辺
遺物出土状況
（北から）

１．遺構全景（東から）



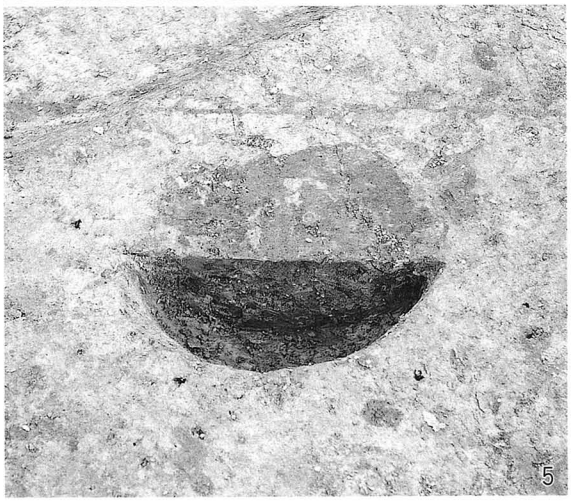
２．溝 SD01A–A’
（南東から）



３．周溝式掘立柱建物
SB01A–A’
（南西から）

４．柱穴状土坑 SP09
（南から）

５．柱穴状土坑 SP13
（南から）



図版10 〔10地区〕

1．遺構全景(北東から)

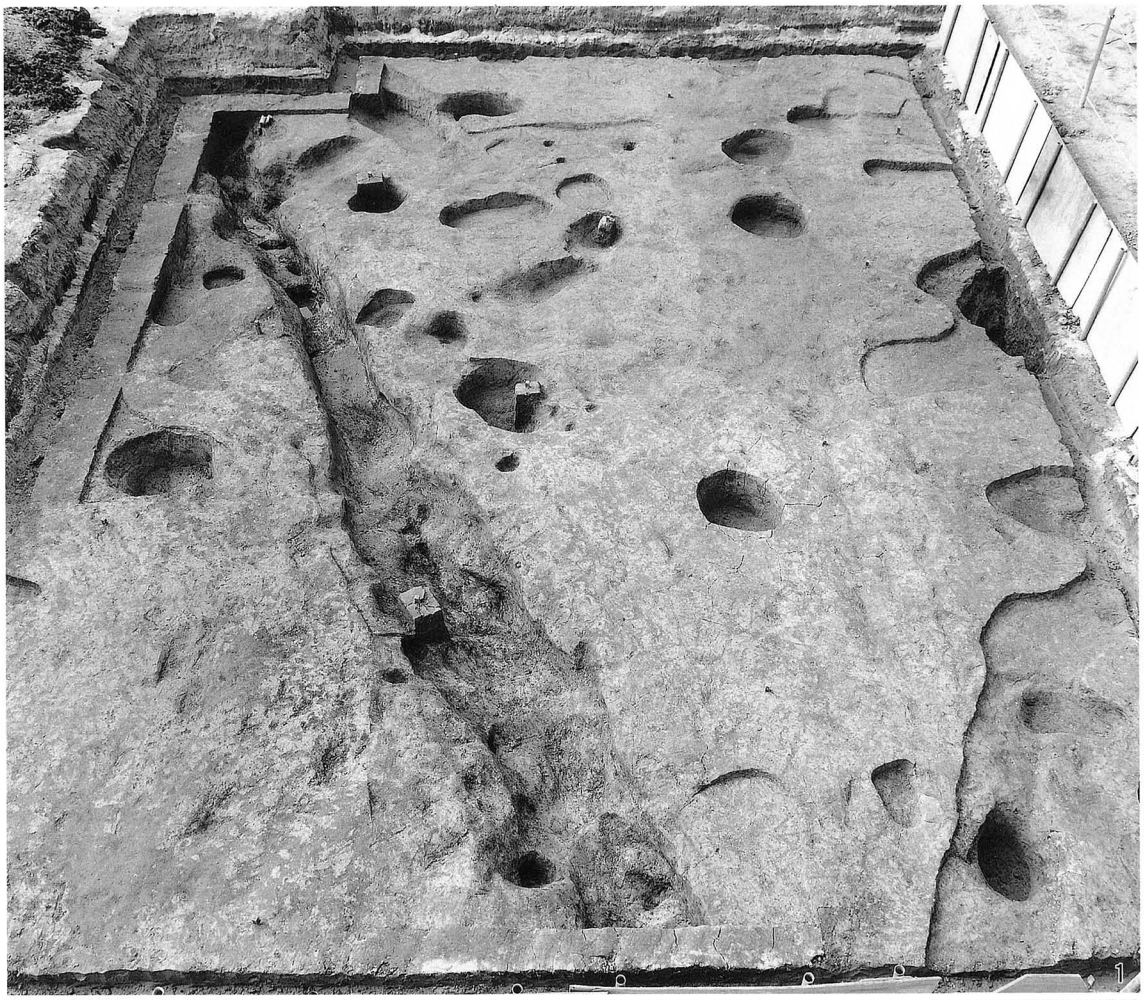
2．溝 SD01B–B'
(北東から)

3．溝 SD02 (南東から)

4．井戸 SE03A–A'
(東から)

5．井戸 SE03B–B'
(南から)

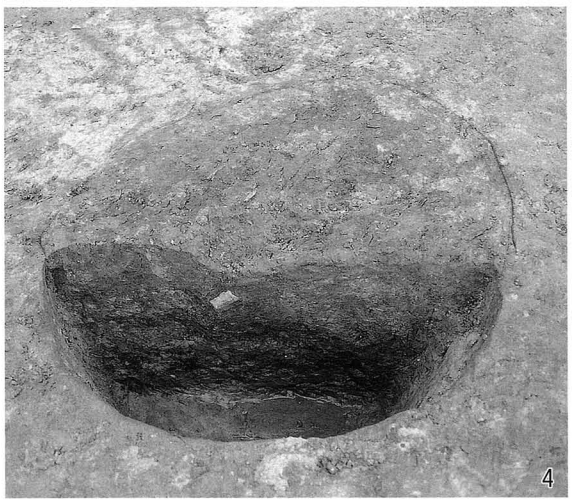
1．遺構全景（東から）



2．溝 SD05A–A’
（南東から）

3．溝 SD07C–C’
（北東から）

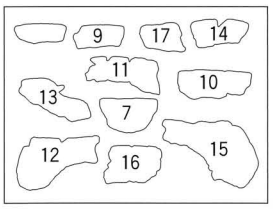
4．土坑 SK05A–A’
（南東から）

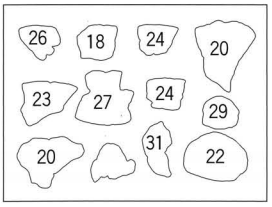


5．溝 SD07（東から）
遺物出土状況

図版12 〔4地区〕

出土遺物
土器
溝 SD15





出土遺物
土器・石製品
溝 SD15

21

30

8

6

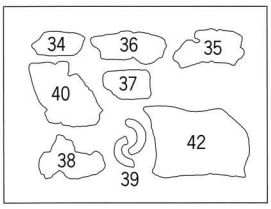
25

19

33

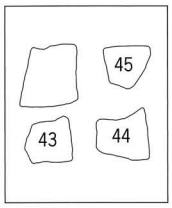
図版14 〔5・7地区〕

出土遺物
土器（5地区）
土坑 SK05

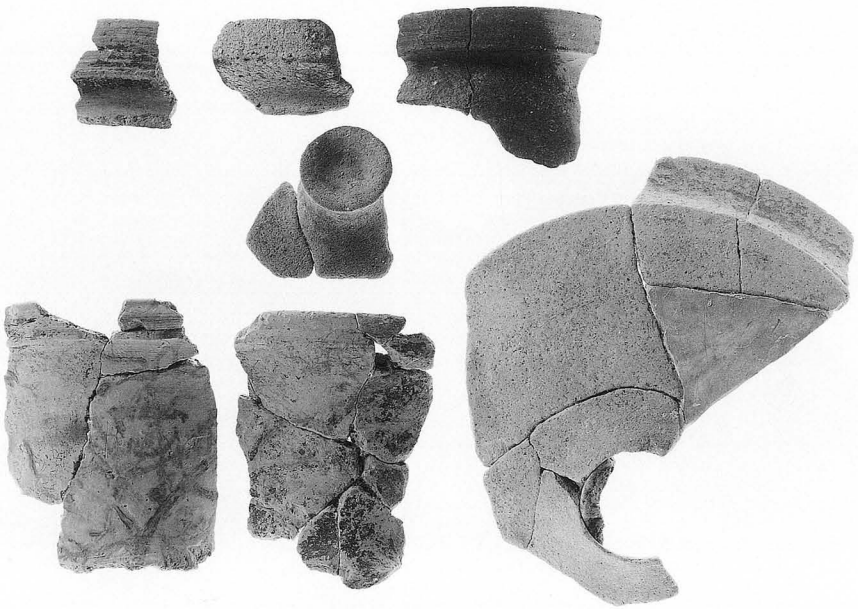


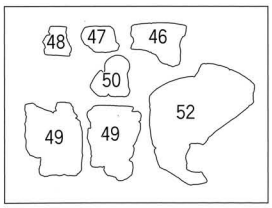
土坑 SK05（左）
溝 SD17（右）

41



土器（7地区）
溝 SD01





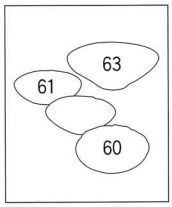
出土遺物
土器（7地区）
溝 SD02(左)

土器（8地区）
包含層（右）

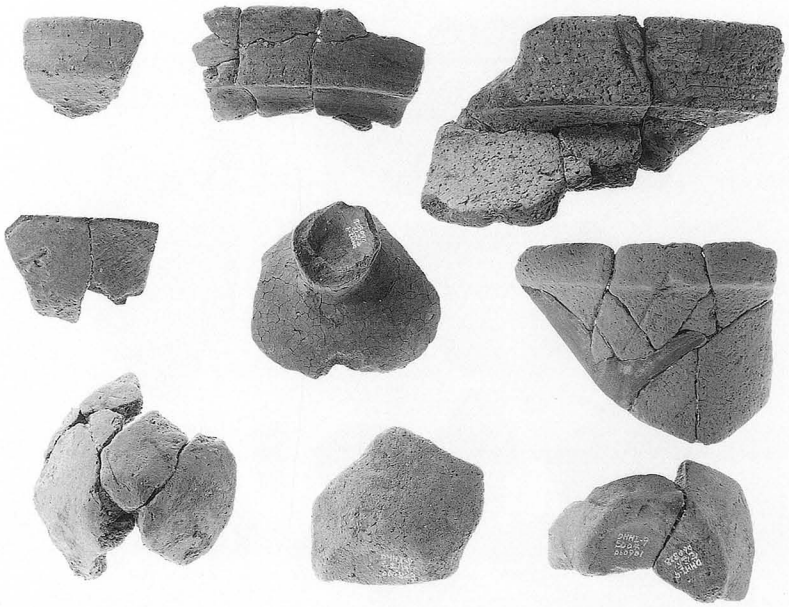
58

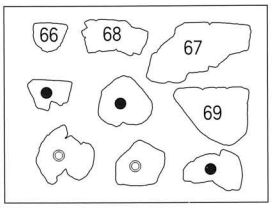
65

土器（8地区）
包含層



土器（9地区）
溝 SD01(66)
溝 SD04(●)
土坑 SK01
(67)
包含層
(68・69・◎)





図版16 〔10・11地区〕

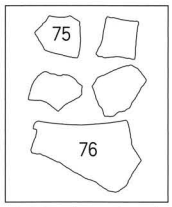
出土遺物

土器（10地区）

溝 SD01（左）

溝 SD02（右）

72



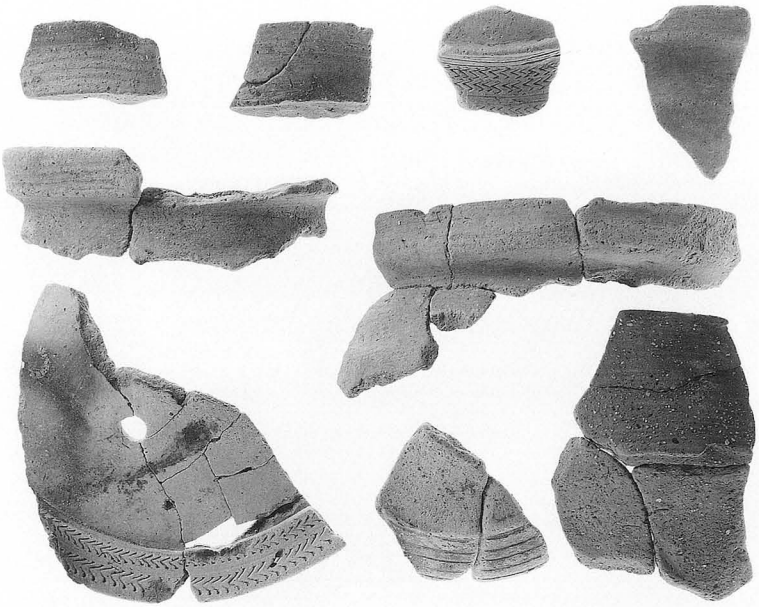
土器（11地区）

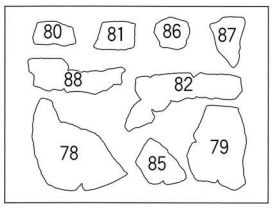
溝 SD03（78・79）

溝 SD07

（80～82・86・87）

土坑 SK19（88）



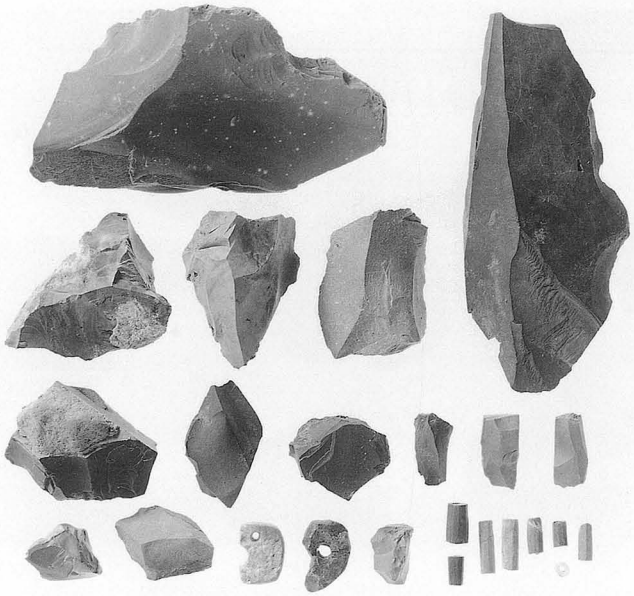


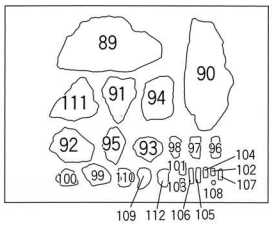
石製品（11地区）

溝 SD07（89～109）

土坑 SK11（112）

土坑 SK16（110・111）





報告書抄録

ふりがな	ほんごうはたけだいちいせきはっくつちょうさほうこく
書名	本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告（3）
副書名	個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査
編著者名	田中　明
編集機関	射水市教育委員会
所在地	〒933－0292　富山県射水市加茂中部893番地　℡0766－59－8092
発行年月日	西暦2007年　3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ほんごうはたけだいちいせき 本江畑田Ⅰ遺跡	とやまけんいみずし 富山県射水市 あおば台	211 (382)	411 (057)	36度 43分 09秒	137度 03分 08秒	平成17年度 20050615～ 20051222	432㎡	個人専用住宅建築に伴う事前調査
						平成18年度 20060613～ 20061108	372㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本江畑田Ⅰ遺跡	集落	弥生	溝 土坑 井戸 周溝式掘立柱建物	弥生土器 勾玉 管玉未成品 ガラス小玉 磨製石斧未成品	弥生時代後期後半から終末期にかけての玉作り関連遺物が出土している。
		古代	溝 井戸	土師器 須恵器 鉄滓	
		中世	溝	珠洲 青磁	

＊コード欄の(　)内の数字は合併前の富山県埋蔵文化財包蔵地地図の遺跡番号を示す。

本江畑田Ⅰ遺跡発掘調査報告（3）

－個人専用住宅建築に伴う埋蔵文化財調査－

2007（平成19）年3月30日　発行
編集・発行　射水市教育委員会
〒933-0292
富山県射水市加茂中部893番地
TEL0766－59－8092
印　　刷　能登印刷株式会社

本報告書はFMスクリーンで印刷されたものです。